ISSN1343-4837
土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書　第21集

高知県香美郡土佐山田町

林ノ谷古窯跡発掘調査報告書

自然崩壊に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2003. 6

土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町

林ノ谷古窯跡発掘調査報告書

自然崩壊に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2003. 6

土佐山田町教育委員会

序　　文

土佐山田町植、新改、須江、入野、大法寺地区には７世紀から10世紀にかけての窯跡群が四十数か所確認されています。その窯跡群の一つには高知県でも最古の寺院に属する比江廃寺跡の瓦をはじめ、土佐国分寺の瓦など古代の寺院の甍を飾った屋根瓦、古代の土器である須恵器など古代の土佐国内では一大窯業生産地として繁栄した所です。

この度、文化庁、高知県教育委員会にご協力いただきこの窯跡群の一つである林ノ谷古窯跡の遺構の残存状況、年代確認のための調査を実施しその調査成果を今回、報告書として刊行いたしました。

本書が古代土佐国における窯業生産の研究の一助となれば幸いです。本調査にご協力いただきました関係者、関係機関に対しまして厚くお礼申しあげます。

平成15年６月30日

土佐山田町教育長　　原　　初　恵

例　言

1．本書は、土佐山田町教育委員会が平成６年度から平成８年度に実施した林ノ谷古窯跡発掘調査報告書である。

2．林ノ谷古窯跡群は、高知県香美郡土佐山田町新改字林谷338番地他に所在する。

3．当該地の試掘調査及び発掘調査は、第１次調査は１号窯跡を平成６年７月14日から平成６年９月16日、調査面積65㎡、第２次調査は第３号窯跡を平成７年７月14日から平成７年９月13日、調査面積40㎡、第３次調査は３号窯跡を平成８年７月29日から平成８年８月27日、調査面積60㎡と３ケ年にかけて調査を実施し、資料整理・報告書作成を平成15年度に行なった。

4．調査体制は以下のとおりである。

調査主体　土佐山田町教育委員会

調査事務　土佐山田町教育委員会

平成６・７年度		平成８年度		平成15年度	
教育長	門脇　昭	教育長	門脇　昭	教育長	原　初恵
社会教育課長	前田隆明	社会教育課長	前田　智	社会教育課長	山崎泰広
調査事務	中山泰弘	調査事務	中山泰弘	調査事務	小林麻由
調査担当	中山泰弘	調査担当	中山泰弘	調査担当	中山泰弘

5．発掘調査にあたっては、地元新改地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団高知県立埋蔵文化財センターの協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員　伊藤　仁、佐々木龍男、竹崎芳子、小松一仁、池　宣弘、中沢英子、川端清司（皇学館大学学生)、熊沢英武（立命館大学学生)、山岡正明（第一経済大学学生)、田村和之（高知大学学生)、井上郁雄

整理作業員　伊藤　仁、中村千代、岡林　光、竹崎寛将、井上博恵、高橋加奈、宗石祥一、風間俊秀（高知工科大学学生)、山口　正（高知工科大学学生）

6．本書の執筆、編集は中山が行なった。

7．林ノ谷窯跡の調査、整理作業では、森田尚宏（高知県教育委員会文化財課埋蔵文化財班長)、松村信博（高知市立朝倉中学校教諭）を始め数多くの方々から、助言、御教示をいただいた。併せて深く謝意を表したい。順不同、敬称略

8．出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。なお、遺物についての注記は、「94.95.96－ＹＳＨ」を使用する。

本文目次

第Ⅰ章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境 …… 1
１．地理的環境 …… 1
２．歴史的環境 …… 3
第Ⅱ章　調査に至る経過と調査方法 …… 6
第Ⅲ章　遺構と遺物 …… 8
遺物観察表 …… 19
第Ⅳ章　総　括 …… 22

挿図目次

図１　土佐山田町位置図 …… 2
図２　周辺の遺跡分布図 …… 5
図３　林ノ谷古窯跡堀内和郎氏原図 …… 6
図４　林ノ谷古窯跡周辺地形図 …… 7
図５　香長小学校保管遺物実測図 …… 10
図６　林ノ谷古窯跡１～３号実測図 …… 12
図７　林ノ谷１号窯跡　実測図 …… 13
図８　林ノ谷２号窯跡　実測図 …… 14
図９　林ノ谷３号窯跡　実測図 …… 15
図10　出土遺物実測図（94－17ＹＨ） …… 16
図11　出土遺物実測図（95－19ＹＨ） …… 17
図12　出土遺物実測図（96－19ＹＨ） …… 18
図13　土佐山田町古代窯跡分布図１ …… 23
図14　土佐山田町古代窯跡分布図２ …… 24

表　目　次

表１　林ノ谷窯跡周辺の遺跡一覧 …… 5
表２　遺物観察表１ …… 19
表３　遺物観察表２ …… 20
表４　遺物観察表３ …… 21
表５　土佐山田町の古窯跡一覧表 …… 25

写真図版目次

写真1　遺構1 …… 27
写真2　遺構2 …… 28
写真3　遺構3 …… 29
写真4　遺構4 …… 30
写真5　遺物1 …… 31
写真6　遺物2 …… 32
写真7　遺物3 …… 33
写真8　遺物4 …… 34
写真9　遺物5 …… 35
写真10　遺物6 …… 36

第Ⅰ章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1．地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第３位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山山系の白髪山（1,770m）の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波国への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達し(1)、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縦断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野(2)、山田野(3)と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約５km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。

標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m～15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から５m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部(4)、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部(5)で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する(6)。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群（縄文時代～近世）(7)を始め大篠遺跡（弥生時代）(8)が分布する。また、条里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も数本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壌は多湿黒ボク土壌であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。

灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70％を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸（北東～南西方向）にほぼ沿う方向でＪＲ土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

（１）『南国市史』　上巻　南国市教育委員会 1979

（２）『野市町史』　上巻　野市町教育委員会 1992

（3）『土佐山田町史』 土佐山田町教育委員会　1979

（4）佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。

（5）新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。

（6）刈谷我野遺跡（香北町）などがあげられる。

（7）『田村遺跡群　高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊　1986　高知県教育委員会

（8）註（1）に同じ

参考文献

『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会　1979

『角川　日本地名大辞典　39高知県』 角川書店　1986

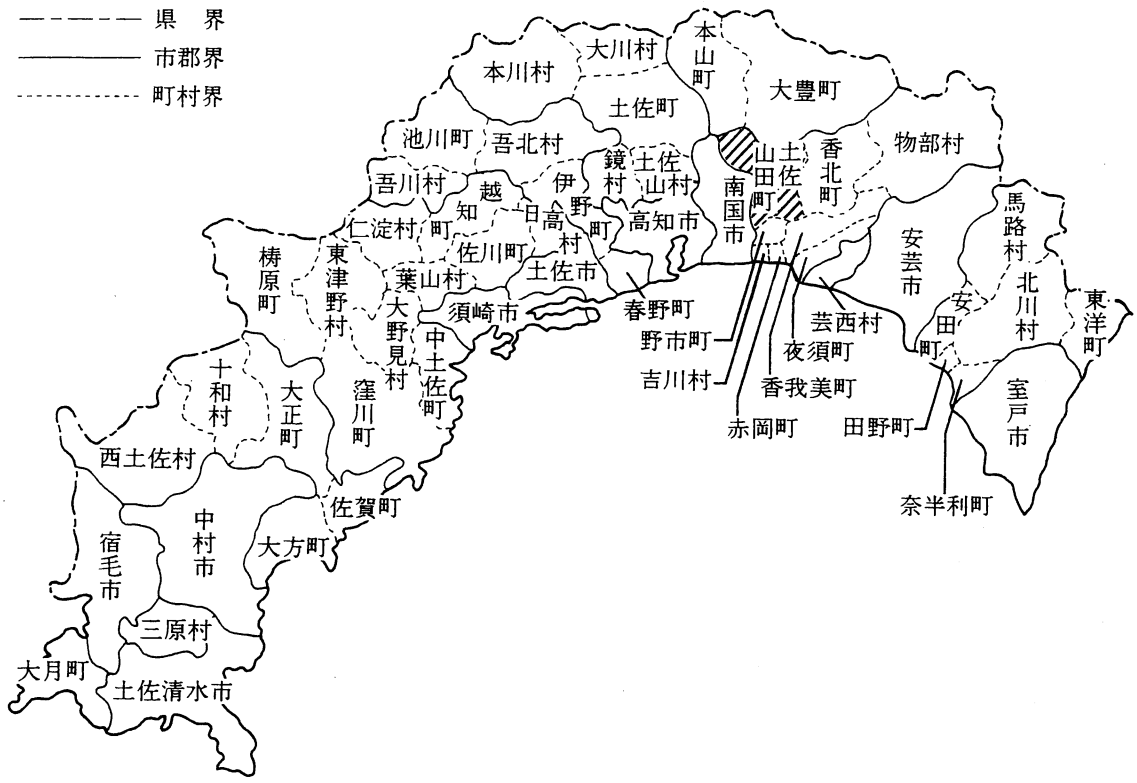


図1　土佐山田町位置図

2．歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、脈々と人の営みを台地に刻みつけている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡[1]の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡[2]と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する開キ丸遺跡[3]より早期押型文土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡[4]からは、晩期の土壙４基と突帯文土器が出土している。北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡[5]からは早期押型文土器、厚手無文の葛島式土器、中期の船元Ⅱ式土器、後期の彦崎ＫⅡ式土器とともに多量のサヌカイト製の石鏃が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノヂ遺跡[6]が存在するが、ここではピット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞洞穴遺跡[7]が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山（322m）の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和８年に遺跡の部分が発見され、翌９年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は３室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鏃、石錘、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、瑠璃製勾玉等の装身具、貝類、獣骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキⅡ式土器が出土している。龍河洞洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡[8]、雪ヶ峰遺跡[9]、影山遺跡[10]がある。中期後半に属する遺跡は多く、原遺跡[11]、原南遺跡[12]からは竪穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘建柱建物跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡[13]が存在する。これらの土器群はヒビノキⅠ～ヒビノキⅢ式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡[14]では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡が５棟検出されており、この内１棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡[15]が存在する。ここからは竪穴住居跡５棟が検出され、土器と共に多量の鉄鏃が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳[16]は、５世紀末から６世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯群を挙げることができる。奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には比江廃寺跡[18]の瓦を焼成したタンガン遺跡[19]や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡[20]も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡[21]、須江北遺跡[22]からは官衙的堀立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方２kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里制遺構[21]を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地[23]と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏[24]が建久４年（1193）に土佐国へ入国以来勢力をのばし、楠目の山田城を本拠[25]に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山[26]による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町[27]として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として

発展し、今日に至る。

註

（1）西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題（Ⅵ）」2000
（2）『奥谷南遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター　1999
（3）『開キ丸遺跡　新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　2002
（4）小山田遺跡　註1と同じ
（5）『飼古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会　1983
（6）『林田シタノヂ遺跡Ⅱ　農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　1993
（7）『龍河洞』高知県教育委員会　1959
（8）『土佐山田町史』P52　土佐山田町教育委員会　1979
（9）註8と同じ
(10) 註8と同じ
(11)『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡－』高知県教育委員会　1982
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡Ⅱ－』第25集　高知県教育委員会　1984
(12)『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団　1991
(13)『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会　1977
(14)『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集）土佐山田町教育委員会　1990
(15)『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　1985
(16)『伏原大塚古墳』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集）土佐山田町教育委員会　1993
(17) 註8と同じ
(18)『高知県文化財調査報告書第16集　高知県比江廃寺跡』高知県教育委員会　1970
『高知県文化財調査報告書第33集　比江廃寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会　1991
(19) 註8と同じ
(20)『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会　1978
(21)『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集）
(22) 註21と同じ
(23) 岡本健児「土佐神道考古学5」『土佐史談』第120号
(24) 註8と同じP217
(25) 註8と同じP248
(26) 註8と同じP354
(27) 註8と同じP365

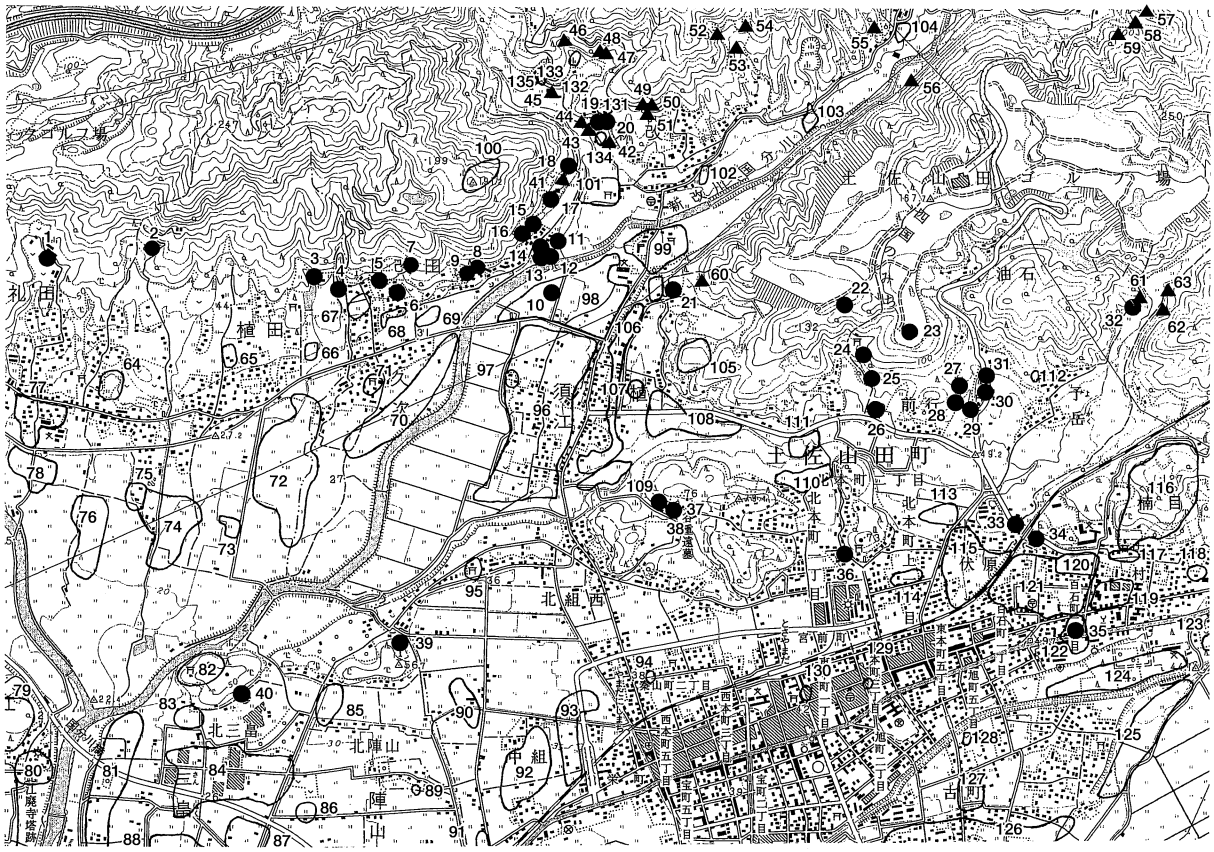


図２　周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山田古墳	古墳	35	伏原大塚古墳	古墳	69	東山田遺跡	弥生・古墳	103	三反山田窯跡	平安
2	高松古墳	〃	36	八王寺西古墳	〃	70	改田神母遺跡	古墳～平安	104	入野南遺跡	平安・中世
3	植田古墳群	〃	37	前山１・２号古墳	〃	71	久次土居城跡	中世	105	植村城跡	中世
4	西久保古墳	〃	38	前山３号古墳	〃	72	ハザマダ遺跡	古墳～平安	106	植カドタ遺跡	弥生・古墳
5	次郎ケ谷西古墳	〃	39	陣山古墳	〃	73	畑ケ田遺跡	〃	107	植南土居遺跡	平安・中世
6	次郎ケ谷古墳	〃	40	三畠山古墳	〃	74	泉ケ内遺跡	〃	108	西クレドリ遺跡	弥生～近世
7	田村氏古墳	〃	41	西ノ内窯跡	〃	75	沖ノ土居城跡	中世	109	モジリカワ遺跡	〃
8	亀ケ谷１号古墳	〃	42	小山田１号窯跡	古墳・奈良	76	白猪田遺跡	古墳～平安	110	山ノ間丸遺跡	中世
9	亀ケ谷２号古墳	〃	43	小山田２号窯跡	〃	77	中ノ土居城跡	中世	111	植キノサキ遺跡	〃
10	須江ツカアナ古墳	〃	44	小山田３号窯跡	〃	78	前嶋遺跡	平安～中世	112	山田氏累代墓所	〃
11	新改古墳	〃	45	西谷１・２・３窯跡	奈良	79	比江山城跡	中世	113	メウカイ遺跡	弥生～中世
12	新改２号古墳	〃	46	東谷松本窯跡	奈良・平安	80	比江廃寺跡	飛鳥・奈良	114	長谷川丸遺跡	古墳～平安
13	新改３号古墳	〃	47	東谷１号窯跡	〃	81	渕ノ上遺跡	弥生～平安	115	伏原遺跡	弥生～平安
14	新改４号古墳	〃	48	東谷２号窯跡	〃	82	南神母遺跡	古墳	116	楠目城跡	中世
15	椎山１号古墳	〃	**49**	**林ノ谷１号窯跡**	〃	83	三畠城跡	中世	117	ひびのき大河内遺跡	弥生～近世
16	椎山２号古墳	〃	**50**	**林ノ谷２号窯跡**	〃	84	三畠遺跡	弥生～平安	118	田所神社遺跡	弥生～中世
17	西ノ内１号古墳	〃	**51**	**林ノ谷３号窯跡**	〃	85	三町遺跡	古墳～中世	119	ひびのき遺跡	弥生・古墳
18	西ノ内２号古墳	〃	52	大谷１号窯跡	〃	86	白山遺跡	古墳～平安	120	ひびのき岡の神母遺跡	弥生～中世
19	小山田２号古墳	〃	53	大谷２号窯跡	〃	87	水通遺跡	弥生～平安	121	ひびのきサウジ遺跡	弥生～近世
20	小山田２号古墳	〃	54	大谷３号窯跡	〃	88	福重遺跡	奈良～中世	122	大塚遺跡	〃
21	タンガン古墳	〃	55	八ノ谷窯跡	平安	89	有光北鍵山遺跡	平安	123	大西土居遺跡	弥生
22	深坂古墳	〃	56	植セガイ窯跡	古墳～奈良	90	浜道の西遺跡	古墳～平安	124	楠目遺跡	弥生～近世
23	杖坂古墳	〃	57	大法寺二反田窯跡	古墳	91	山田三ツ又西遺跡	〃	125	稲荷前遺跡	〃
24	杖坂東古墳	〃	58	大法寺ヘエスヤジ1号窯跡	奈良・平安	92	山田三ツ又遺跡	〃	126	原遺跡	弥生～近世
25	中沢古墳	〃	59	大法寺ヘエスヤジ2号窯跡	〃	93	山田三ツ又東遺跡	弥生～中世	127	古町西遺跡	弥生～平安
26	溝渕古墳	〃	60	タンガン窯跡	飛鳥	94	谷重遠邸跡	近世	128	古町北遺跡	弥生・古墳
27	桜ケ谷古墳	〃	61	予岳窯跡	古墳	95	野中神社	近世	129	公儀の井戸２	近世
28	前行山１号古墳	〃	62	長谷山１号窯跡	平安	96	須江上段遺跡	古墳～近世	130	公儀の井戸１	〃
29	前行山２号古墳	〃	63	長谷山２号窯跡	〃	97	須江駅跡	平安	131	松本山長久寺跡	中世・近世
30	母神古墳	〃	64	東ノ土居遺跡	古墳～中世	98	須江北遺跡	古墳～平安	132	勝福寺跡	〃
31	大元神社古墳	〃	65	植田土居城跡	〃	99	藁原神社遺跡	奈良～中世	133	勝楽寺跡	〃
32	大元神社北古墳	〃	66	寺中遺跡	古墳～平安	100	改田氏物見の城跡	中世	134	小山田遺跡	縄文・古代・中世
33	与岳古墳	〃	67	北野遺跡	古墳～中世	101	南ケ内遺跡	弥生～中世	135	西谷遺跡	旧石器
34	小倉山古墳	〃	68	辻谷田遺跡	古墳～平安	102	屋甫田丸遺跡	中世			

表１　林ノ谷窯跡周辺の遺跡一覧

第Ⅱ章　調査に至る経過と調査方法

1．調査に至る経過

土佐山田町新改、須江、植、入野、大法寺地区には７世紀から10世紀にかけての窯跡が所在している。窯跡の実数は不明であるが主に須恵器窯が主流で、瓦窯は僅かである。瓦窯では植タンガン窯跡が南国市に比江に所在する比江廃寺跡の軒丸瓦と同氾であり、また東谷３号窯跡の平瓦が土佐国分寺と同一であることが確認されている。また、近年小山田遺跡は古代窯に伴う灰捨場の二次堆積層より多量の須恵器、布目瓦が出土しておりその中には鴟尾の残片が発見されている。これらの窯跡群を総じて須江古窯跡群と呼称している。その窯跡群のなかで林ノ谷に所在するのが３基の窯より成る林ノ谷古窯跡群である。

土佐山田町新改字林谷に所在する林谷古窯跡群は昭和10年代に発見された。発見当時は３基とも天井部、焚口、煙出しを含め完全に残っていたが、戦後の食糧難による農地開墾時に一部天井部を残しながら破壊された。その後、遺跡所在地は植林され天井部は崩壊し、現在、窯跡は側壁部、底部が残存している。しかしながら植林の木々も生育し、窯跡も数十年の風雪により側壁部、底部ともに形状が少しずつ破損が進んでいることから現況の遺構記録、及び年代特定のための試掘確認調査を実施した。

註

(1)『土佐山田町史』Ｐ126～154　土佐山田町教育委員会　1979

2．調査の方法

発掘調査は任意によるトレンチ調査区を設定し、表土及び遺構検出面、遺物包含層直上までの掘削を人力により精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて４ｍ方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の１を基本とし、必要に応じて10分の１の実測を行なった。

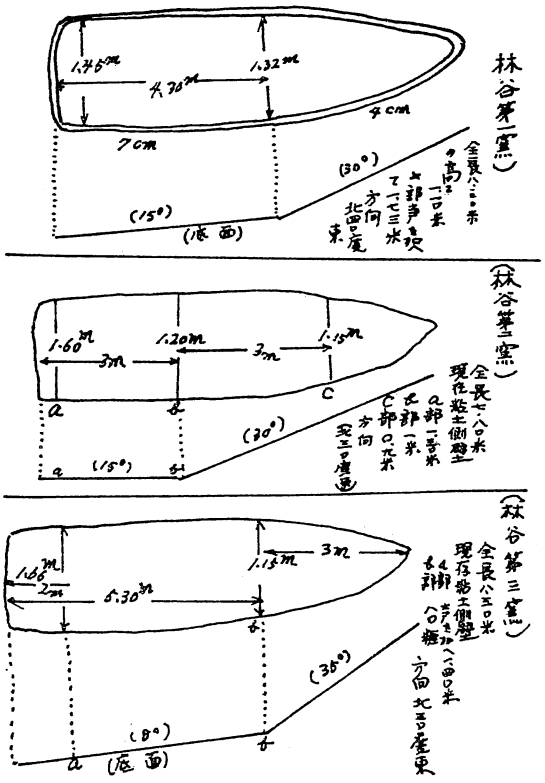


図３　林ノ谷古窯跡堀内和郎氏原図

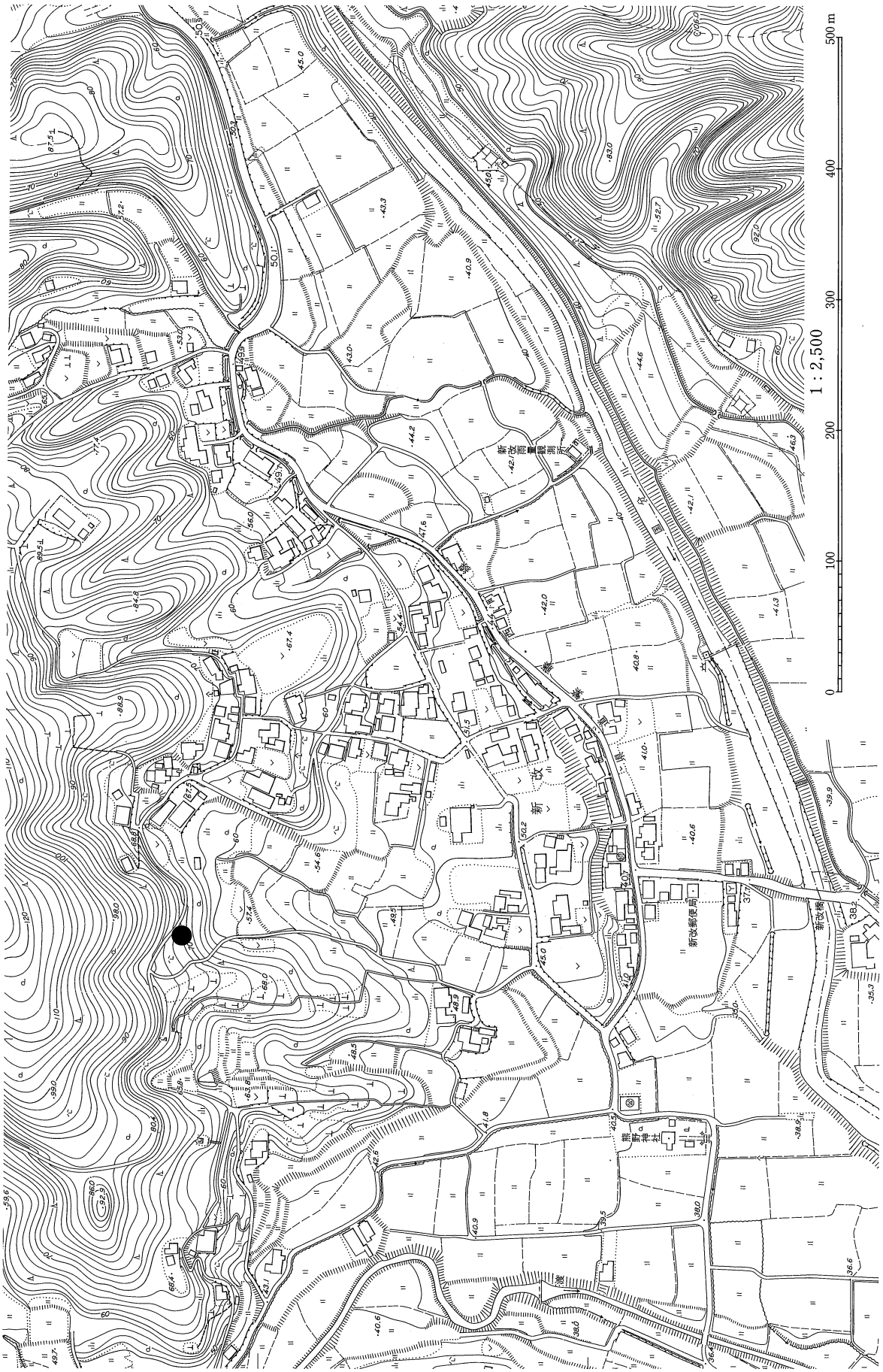


図４　林ノ谷古窯跡周辺地形図

第Ⅲ章　遺構と遺物

林ノ谷窯跡群は町道新改天行寺線（229号）下の山麓南側斜面の植林に３基からなる。植林前は数段にわかれた農地であった。

上の道路下にある窯跡を１号窯跡、さらに下段に並列に並んで存在する窯跡を東側から２号窯跡、西側に隣接する窯跡を３号窯跡と呼んでいる。

１号窯跡

１号窯跡の現況は緩やかな斜面に造られ床面は土砂に埋没し残ってはいたが側壁、天井部はなかった。発掘調査により窯全長約９ｍで燃焼室、焼成室の明確な区分は明瞭ではない。側壁部の最大幅は約２ｍで、焼成室の平面プランは舟底状をなし、傾斜角度は焼成室に近い付近で35度、焼成室中央部で30度である。天井部は破壊され不明である。側壁は一部残存する。側壁部は粘土と砂及びワラを混ぜて形成され茶褐色、青灰色をしている。煙出し部分も破損しており不明である。窯は半地下式構造の登窯である。遺物は須恵器片が出土している。

２号窯跡

２号窯跡は３号窯跡に隣接して構築されている。窯は半地下式登窯の構造をもつ。窯は完形ではなく側壁の一部を残し天井部は崩壊している。窯跡は全長約９ｍ、側壁部の最大幅約1.8m、底部は舟底状をなし焚口部分は崩壊し、明瞭でない。煙出し部分も崩壊している。窯の傾斜角度は窯中央部で35度、煙出し部分で38度をなす。床面は焼成が良く保存状態は良好である。側壁は粘土、砂、ワラを混ぜて構築されている。焚口部分に小トレンチを入れ窯跡底部の断面を観察したところ窯底部の厚さはわずか５cmで２から３回の修復が確認できる。遺物は窯跡床面より須恵器片が出土している。

３号窯跡

３号窯跡は２号窯跡の西側に隣接している。窯は半地下式登窯の構造をもつ。窯は完形ではなく側壁の一部を残し、天井部は崩壊している。側壁部分もごく一部が残存している。窯跡は全長約8.5mで側壁最大幅は約２ｍである。窯跡の形状は舟底状をなしている。焚口部分は明瞭でない。煙出し部分は崩壊しており不明である。窯の傾斜角度は中央部で約34度、煙出し部分で38度を測る。残存している床面、側面は粘土、砂、ワラを混ぜて構築している。焼成は良好で床面は茶褐色、側壁部分は青灰色をなしている。焚口部分に小トレンチを入れ窯跡底部を観察したところ修復は２回もしくは３回程度と観察できる。

（1）出土遺物

古代の窯跡に関係する遺物は3基の窯跡からは図示できる遺物は発見されていないが窯跡の南側に所在する灰捨場において4箇所のトレンチ調査を実施した。以下、図示できる遺物について分類し概要を報告する。

第1分類　須恵器（碗）（遺物観察表番号　1～18）

碗の底部は回転篦により切り離され、しっかりしたハの字状の張付き高台または、シャープな高台がつく。胴部は斜上方に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部はやや外反し、丸くおさめる。胎土は精選された粘土を使用している。法量は平均して口径12～14cm内外、器高3.8cmから4.5cm内外である。底部内面はナデがみられ、内外面ともに回転ロクロによる横ナデ調整が施されている。一部焼成不良もあるが全体として焼成は良好な遺物が多い。

第2分類　須恵器（杯）（遺物観察表番号　19～25）

杯の胎土は精選された粘土で底部外面は回転篦削りで底部から外上方に上がり胴部でやや立ち上がり、口縁の端部は丸い。内外面共にロクロによる回転ナデによる調整が施される。底部は平底である。また底部に巻き上げがみられるものがある。口径は10～15cm程度である。

第3分類　須恵器（蓋）（遺物観察表番号　30～52）

胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は篦と横ナデによる調整がみられる。口縁部内面にかえりを持たない。天井部は扁平なボタン状や宝珠のつまみがつく。天井部は一段高く膨らみ、膨らみ部分を篦削りして平らに仕上げている。平らな頂部から口縁部はゆるやかに口唇部に下がる。蓋の口径は12cmから15cm内外である。

第4分類　須恵器（蓋）（遺物観察表番号　35・36）

胎土は精選された粘土で内面は回転横ナデ、外面は一部、篦による調整が見られる。天井部は一段高く膨らみ篦による平らな調整により仕上げている。扁平なボタン状のつまみがつく。36は大型の蓋でつまみ部分は欠損している。

第5分類　須恵器（盤）（遺物観察表番号　28・29）

胎土は精選された粘土である。内外面にもロクロによる回転横ナデが施されている。底部は回転篦削りがみられ、平底である。

第6分類　須恵器（甕）（遺物観察表番号　59～63）

胎土は精選された粘土である。中に若干、石英、小石、砂を含むものがある。内外面ともにロクロによる回転横ナデ調整が施されている。内面に青海波文や外面に叩き目がみられるものがある。口縁部に1本から3本の凹線をめぐらし、三角状をなす貼付け突帯、櫛描波状文や篦による単線波状文を施すものがある。

第7分類　須恵器（高杯）（遺物観察表番号　46）

胎土は精選された粘土で内外面にはロクロによる横ナデがみられ、脚部裾はラッパ状に広がるものやベタ状に広がるものがある。杯部は外反して斜上方に向かって立ち上がる。口唇は丸くおさめるものと外反するものがある。

第８分類　須恵器（杯）（遺物観察表番号　69）

胎土は精選された粘土で内外面にロクロによる横ナデ調整が施される。底部は平底で中にはベタ高台もある。回転糸切りに篦による取り上げ痕が認められる。低温による焼成か土師質状のものがみられ、焼成による歪みのあるものも多い。口径は13cmから16cmのものが多い。器高は５cmから６cm内外のものが多くみられる。

第９分類　須恵器（皿）（遺物観察表番号　26・27）

胎土は精選された粘土である。内外面にロクロによる回転横ナデ調整がみられる。底部は平底で底部より斜上方に向かって立ち上がる。

第10分類　瓦（平瓦）（遺物観察表番号　65）

胎土は精選された粘土である。凸面は荒目の布目痕がみられるものと篦調整がみられるものがある。凹面は細い布目痕が残る。

（２）その他の遺物

写真番号

窯壁の破片で指圧ナデがみられる。焼成は硬質で良く藁のあった空洞がみられ、粘土と藁を混ぜて窯本体を構築していたと考えられる。

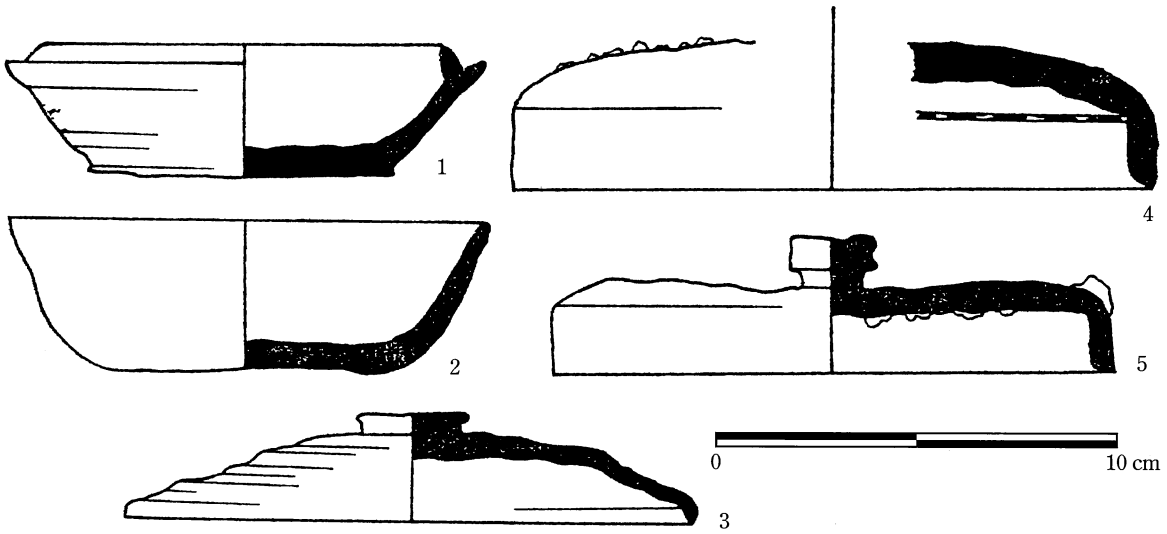


図５　香長小学校保管遺物実測図

林ノ谷窯跡補遺（参考１）

土佐山田町立香長小学校に林ノ谷窯跡出土遺物が以前から保管されていたが現在、土佐山田町教育委員会に移管し、保管している。遺物は須恵器の杯、杯の蓋、壺の蓋、甕胴部破片である。これらの須恵器はどの窯跡に伴って出土したかは不明である。１の杯は７世紀後半に位置づけられる。他の遺物は８世紀後半と考えられる。今回の発掘調査からは１の杯にあたる７世紀後半の遺物は発見されていない。今後検討を要する。

林ノ谷窯跡補遺（参考２）

堀内和郎「土佐に於ける原史時代の陶工・瓦工址の発見」

『土佐史談』第58号所収　昭和12年

新改部落林谷

ここに三個の窯址を発見し且つ発掘を行なった。

窯の形式は何れも登窯で、丘陵の傾斜面をかな穿ちて設けられたもので現在の地表は幾段もの畑に開墾され其の畑には約七十年程前に植えられた櫨の木が多数ある。階段状の畑の先端には茶の木が列をなして植えられてある。今仮に最初に発見した向かって中央を第一窯とし次に発見した向かって右を第二窯、最後の向かって左にあるものを第三窯として記述することとする。三個共に火口は南々西に面する。平面は何れも舟底形を呈し長さ八－九米前後である。下部の幅約一・五〇米、高さは一・五〇米位と思われるが天井が破壊されているため詳細は不明である。内部の壁面は粘土にワラを切ったものを混ぜ更に細砂を交ぜて堅く打ち固めたもので厚さは七センチ内外である。色は祝部土器と同じ鼠色を呈している。天井の破片を見るに小さな円筒形の並んでいるところから考えると小き木とか竹の様なもので半円形をつくり、それに粘土を打ちつけて造ったものと思はれる。

火口は保存困難な場所で第一、第三窯は破壊されているが第二窯は比較的明瞭に残っている。煙口は三個共に存し第三窯に就いて見ると直径四十八糎で稍楕円形を呈している。殊に第一窯の如きは此の煙口から下方役一・五〇米の間は天井が現存し、窯の天井部が穹窿（きゅうりゅう）状を呈する事を証明することが出来る。猶三個の窯址の形については実測の結果を示すこと第三図の如くである。発見遺物は三個の窯共に大体共通であるが、祝部土器に属する陶器類が多く厚手のものの坩の破片には裏面に槌でたたいた跡が存し、甕の類はその破片より原形に復元すれば水三－四斗も入れ得ると思はれるものもある。又薄手の陶器類破片は最も多く、その質堅く殊に裏面に渦紋あるものもある。これは此の地方の古墳副葬品のとよく似て居る。渦紋のなき無地の盤の類が多いが日常生活に用いられたもので極めて多く製造された事を思はしめる。又窯址発見遺物に共通の溶着陶器片や、窯址に特有な生焼けのもの、歪形のもの、半品品、陶滓、壁片、等がある。又陶器の表面には櫛を用いて無数の横線を入れたものや、直線による色々の模様があるものもある。一部の陶器片には釉を用いたものもある。

第一、第二窯からは土師器片が可也出土しているが当然祝部よりも古くあるべきものなれども、祝部と共に併行して製造せられていた事を物語るものであろうか。

木炭は所々に発見されるが特に焚口に近い部分に多く認められる。焼けた石塊はこの登窯が階段式でないために器物を並べるときの台や支へ物とせられた事であろう。

特殊出土品としては付近の灰捨場と思われるところから出土した長さ七センチ、白墨大のものがある。両端に穴が穿たれたものもあれば、穴の貫いてないものもある。多分余枝として漁業に用いる「オモリ」を作ったのではないか。又三十センチ位の丸い鐶の様なものがあるがこれも陶器の口部などに用ふる未成品ではないかと思ふ・・・。

この窯址より出土する破片が大体この付近の古墳より出土するものと同質であることによって之等古墳と時代を同うするものと思われるが、中には古墳出土品よりも新しいと思われるものもある。大体時代を平安朝と推定するが、土佐は文化遅れしたため大宝の制がしかれて後も古墳もつくられるし、又大化の政により氏族制度が破れて後も、陶邑はつづいて可也おそくまでここで窯業をつゞけたでなかろうか。此の点について更に研究を重ね、大家の考証をお願い正確な発表を後日に譲りたいと思う。

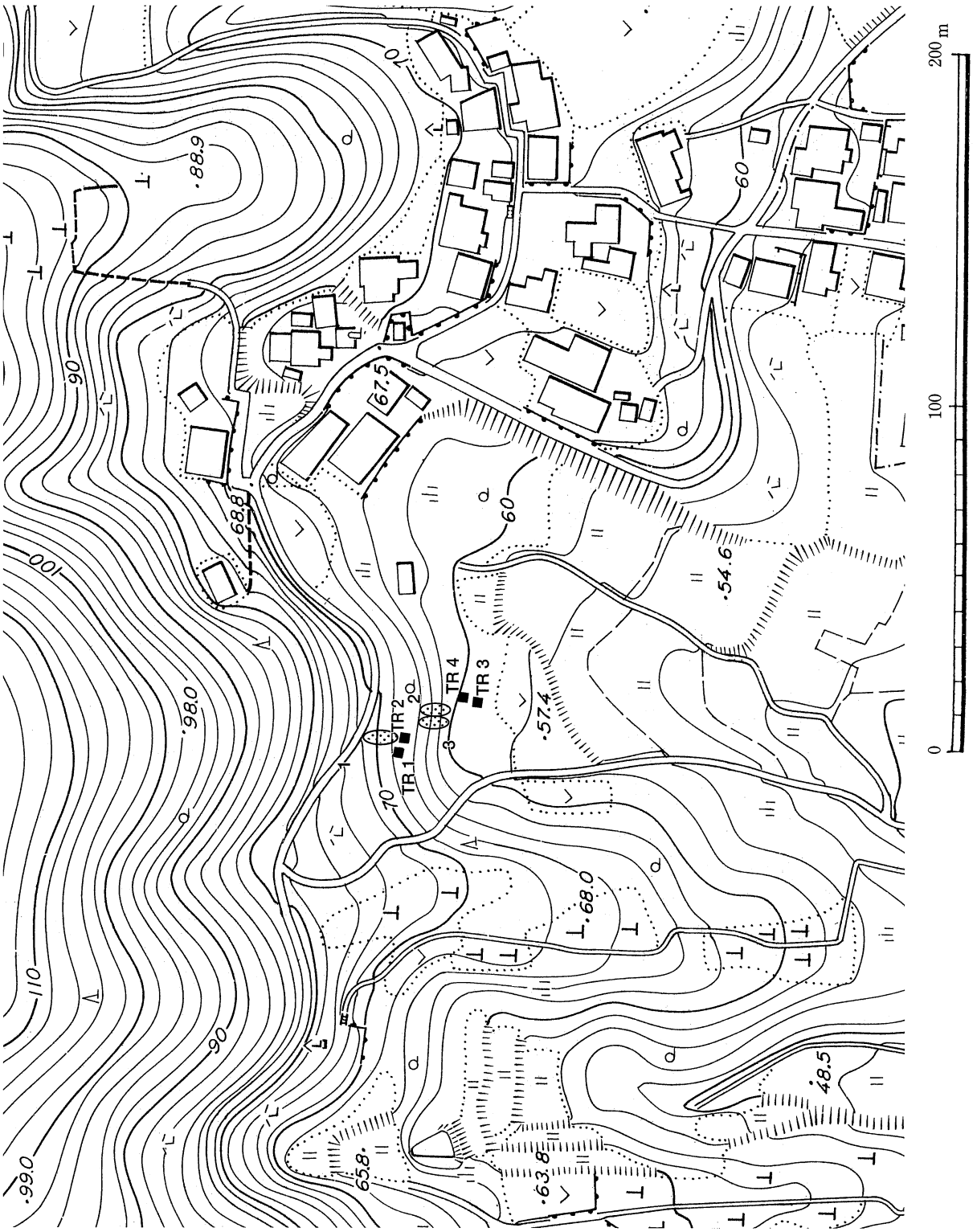


図６　林ノ谷古窯跡１～３号実測図

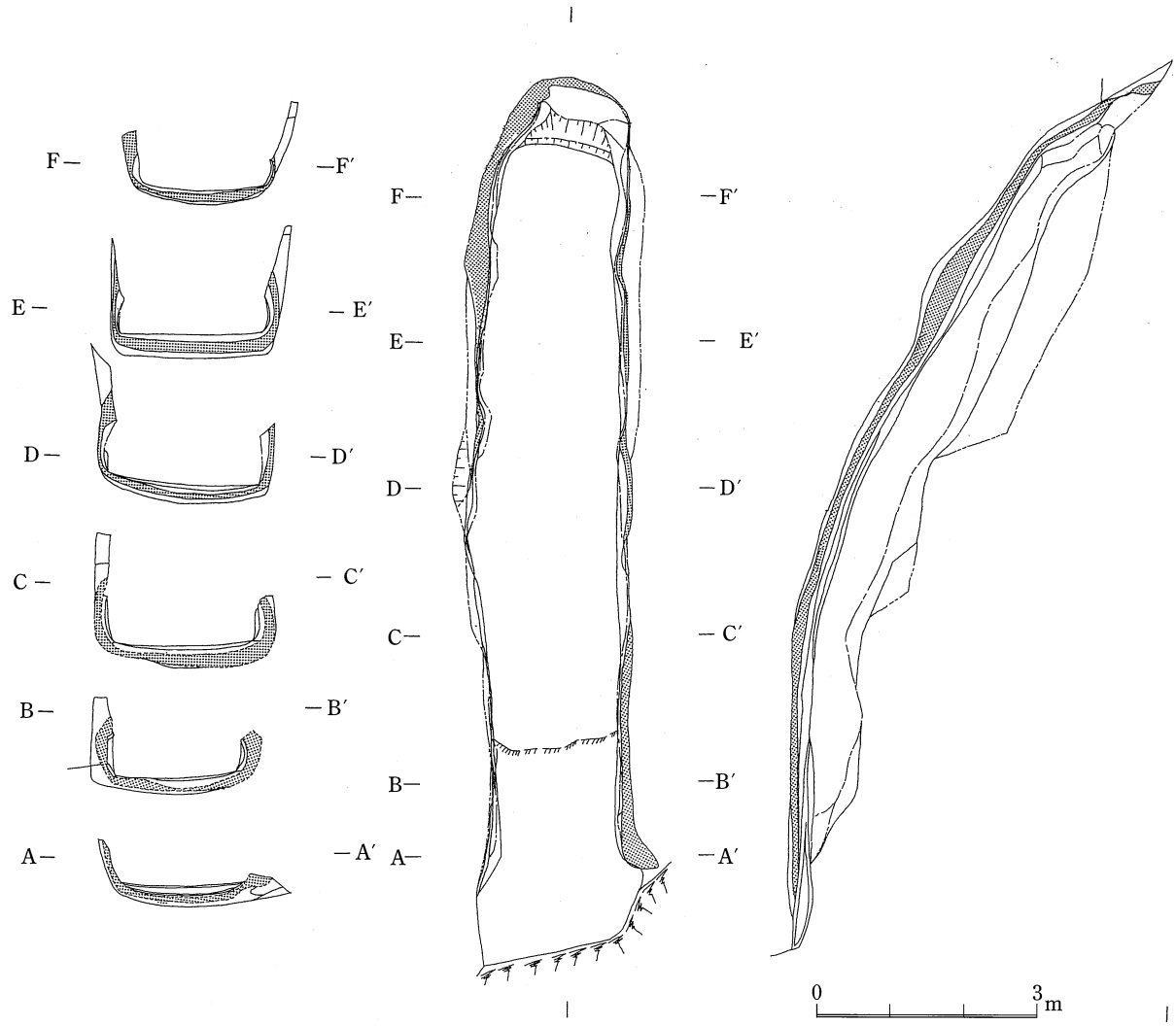


図7　林ノ谷1号窯跡　実測図

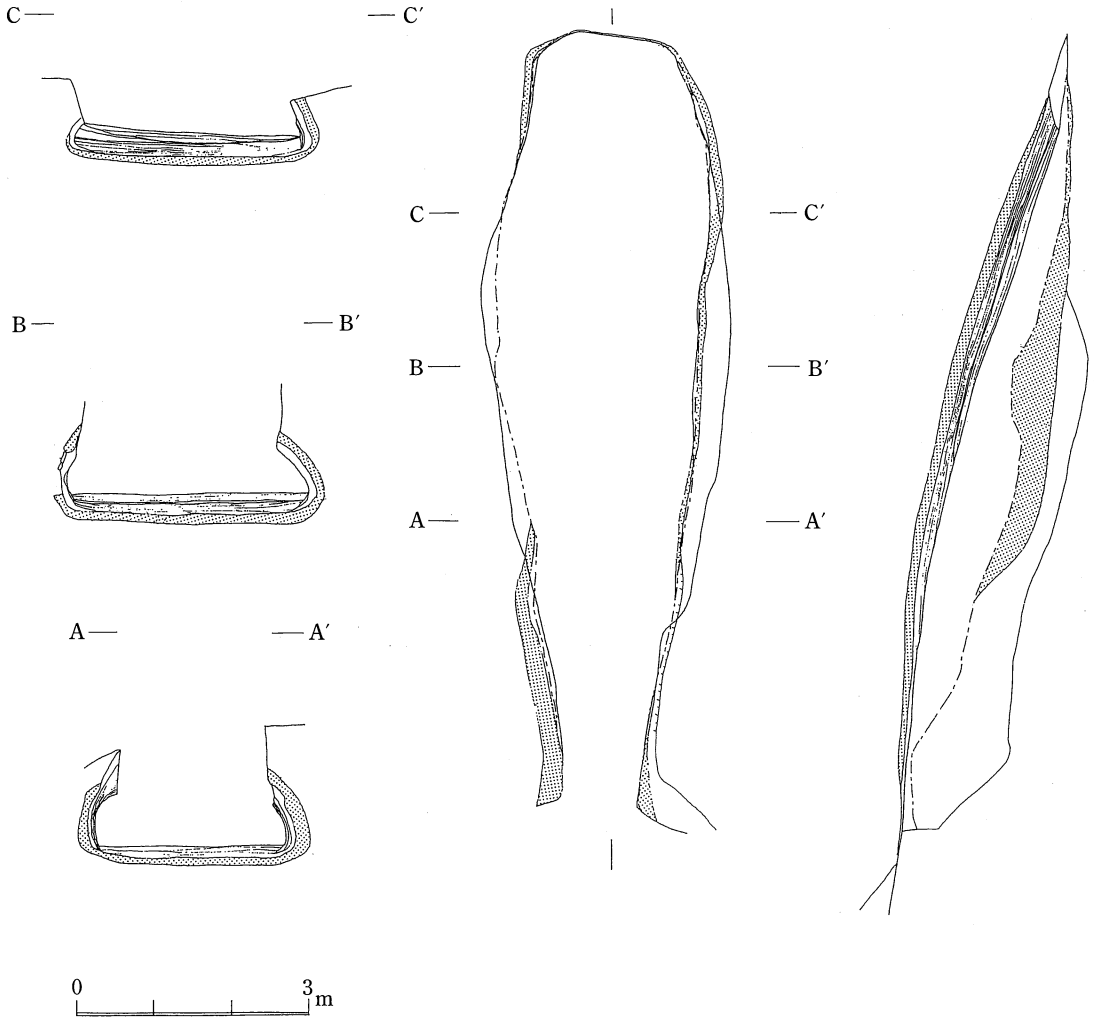


図８　林ノ谷２号窯跡　実測図

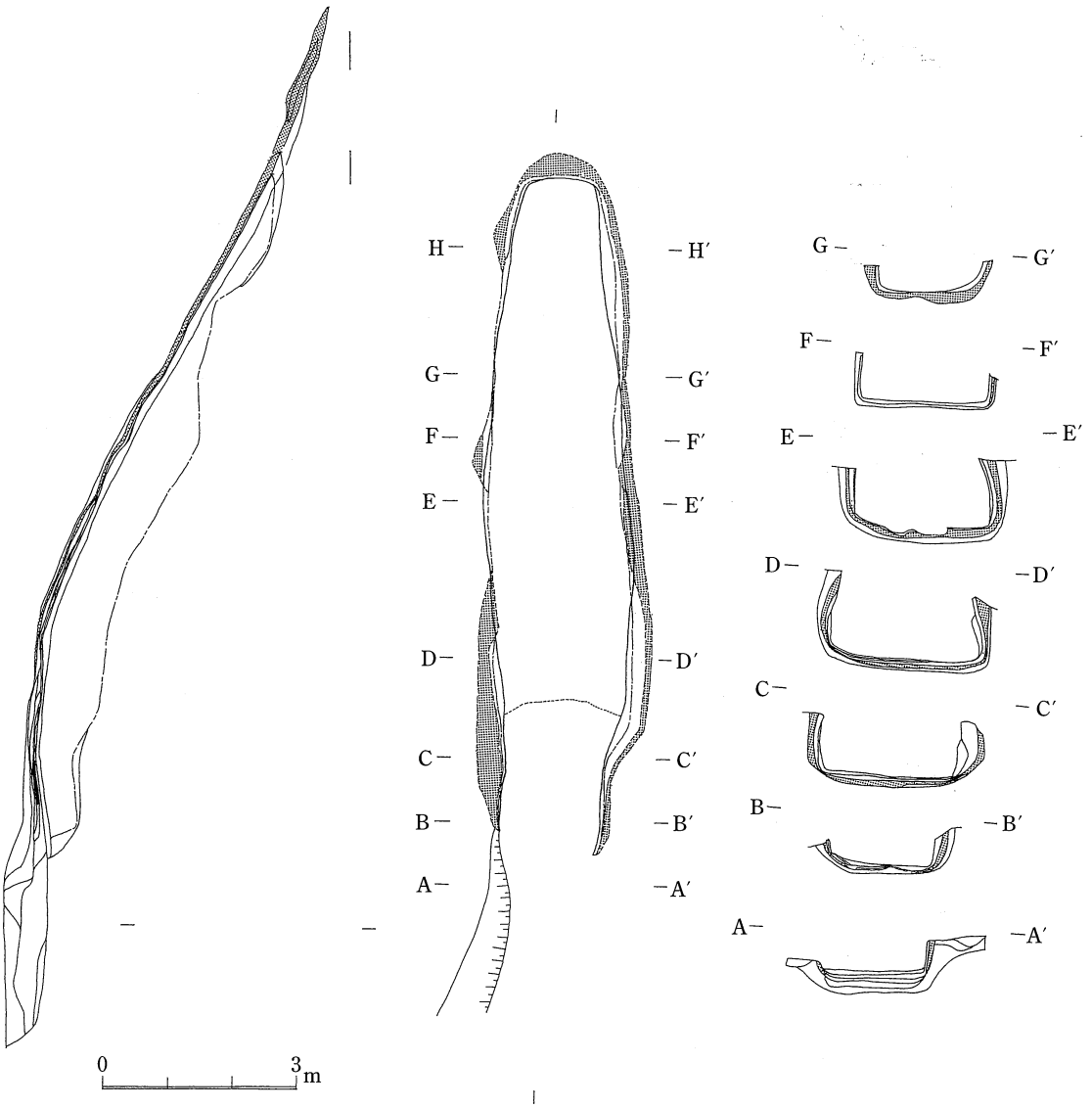


図９　林ノ谷３号窯跡　実測図

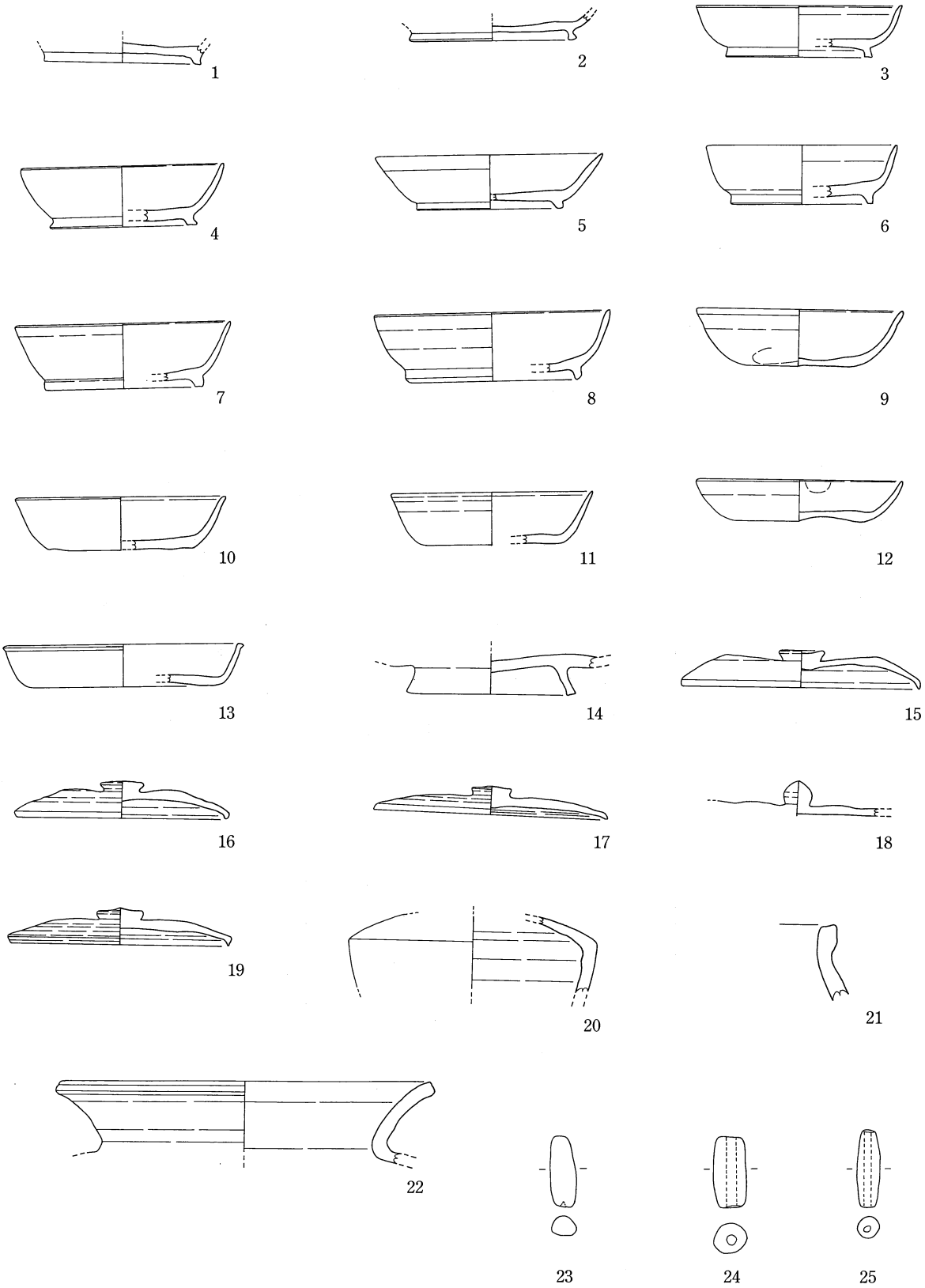
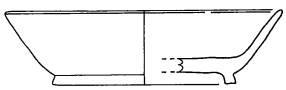
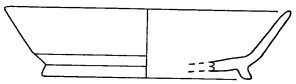
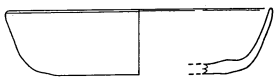


図 10　出土遺物実測図（94−17YH）


1


2

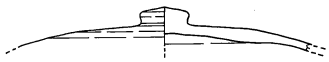
3


4

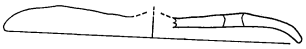
5

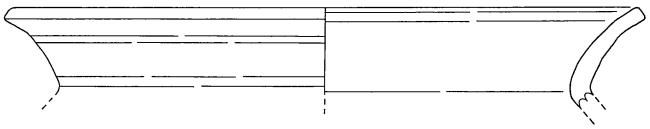
6

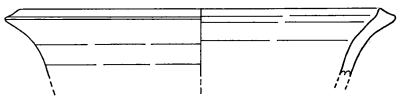
7


8

9


10


11


12

13

14

図 11　出土遺物実測図（95−19YH）

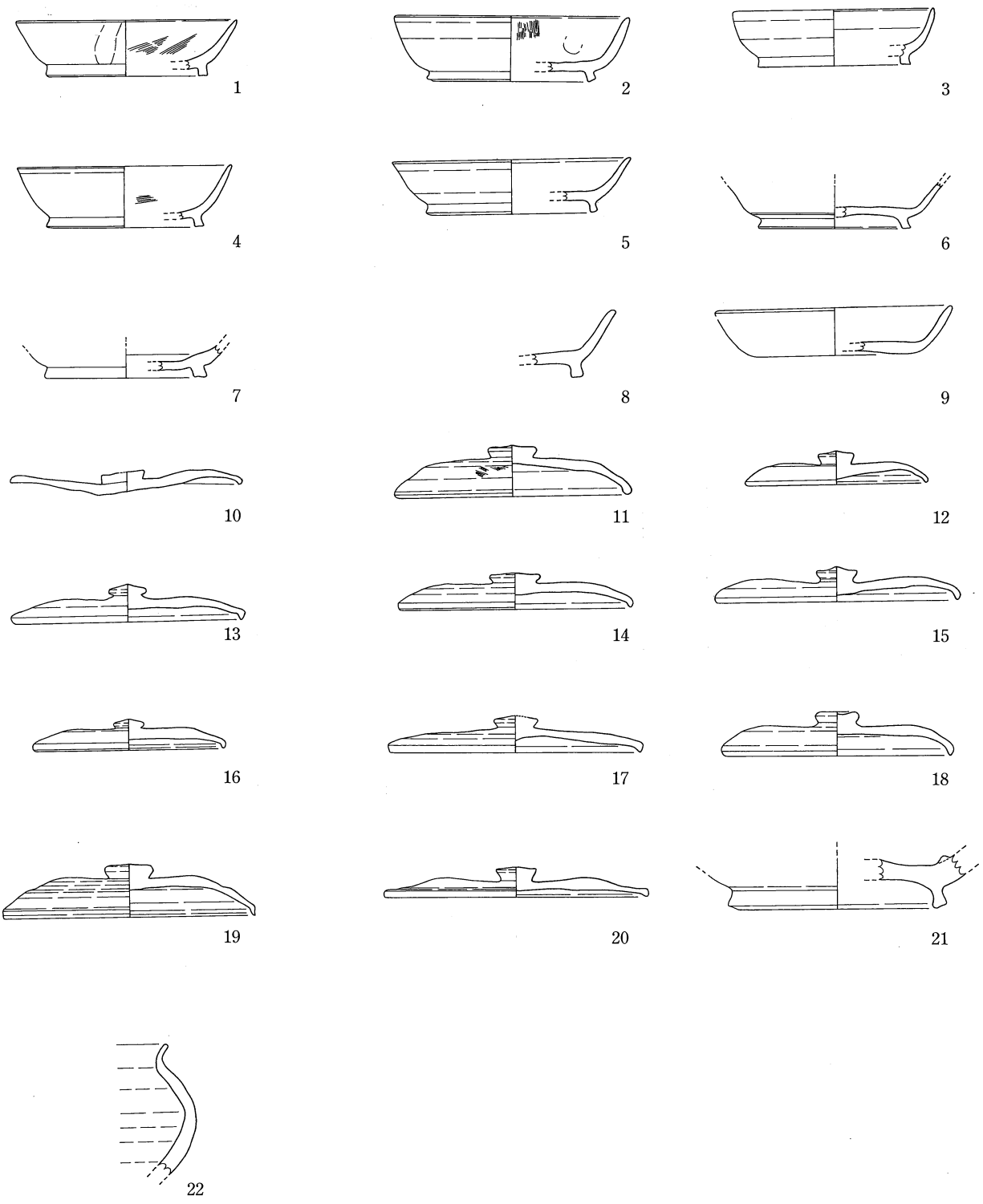


図 12　出土遺物実測図（96−19YH）

表2　遺物観察表1

実測No.	図No.	写真No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	分類	法量（cm）			胎土	焼成	色　調	特　徴 成形／調整／その他
							口径	器高	底径				
1	10-1	53	Ⅲ層 TR2	碗	須恵器	1			10.2			内面：5Y5/1灰 外面：2.5Y7/2灰黄	回転ナデ 内底面ナデ／高台貼り付け
2	10-2	52	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1			10.9			内面：2.5Y6/3灰黄 外面：2.5Y6/3灰黄	内外面ロクロ横ナデ／焼成ゆがみ 高台貼り付け
3	10-3	10	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	13.4	3.3	9.5			内面：2.5Y6/1黄灰 外面：2.5Y6/2灰黄	内外面ロクロ横ナデ／ 高台貼り付け
4	10-4	13	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	13.2（推定）	4.0	9.6			内面：2.5Y6/1黄灰 外面：2.5Y6/3にぶい黄	回転ナデ調整／内定面ナデ 高台貼り付け
5	10-5	8	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	14.8（推定）	3.6	9.6			内面：2.5Y7/2灰黄 外面：5Y6/1灰	回転ナデ／内定面ナデ 高台貼り付け
6	10-6	7	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	12.5（推定）	3.8	9.2			内面：2.5Y6/2灰黄 外面：10YR7/3にぶい黄橙	内外回転ナデ 高台貼り付け
7	10-7	9	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	15.4（推定）	4.5	10.8			内面：2.5Y7/3浅黄 外面：2.5Y6/2灰黄	内外面ロクロ横ナデ 高台貼り付け
8	10-8	12	Ⅱ層 TR2	碗	須恵器	1	13.4（推定）	4.9	7.9			内面：N6/0灰 外面：N7/0灰白	内外ロクロ回転ナデ 回転ヘラ切り／ベタ底
9	11-1	3	Ⅱ層 TR4	碗	須恵器	1	13.8	3.7	9.2			内面：5Y6/1灰 外面：5Y6/1灰	内外面ロクロ回転ナデ 高台貼り付け
10	11-2	47	Ⅱ層 TR4	碗	須恵器	1	14.3	3.5	10.4			内面：10Y7/1灰白 外面：N5/0灰	内外面ロクロ回転ナデ 高台貼り付け
11	12-1	4	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	13.8	3.5	10.0			内面：2.5Y6/2灰黄 外面：5Y6/1灰	内外面ロクロ横ナデ 高台貼り付け
12	12-2	2	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	14.6	4.1	9.8			内面：2.5Y7/2灰黄 外面：2.5Y7/1灰白	内外面ロクロ回転ナデ 高台貼り付け
13	12-3	11	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	12.4	3.5	9.4			内面：2.5Y7/2灰黄 外面：2.5Y7/2灰黄	内外面回転ロクロ横ナデ 高台貼り付け
14	12-4	12	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	13.4	3.9	9.8			内面：7.5Y6/1灰 外面：N6/灰	内外面ロクロ回転ナデ 高台貼り付け
15	12-5	6	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1	14.9	3.4	10.7			内面：7.5Y5/1灰 外面：5Y6/1灰	内外面ロクロ横ナデ 高台貼り付け
16	12-6	48	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1			9.3			内面：5Y6/1灰 外面：5Y6/1灰	内外ロクロ横ナデ 高台貼り付け／底部に×の窯印
17	12-7	49	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1			9.9（推定）			内面：5Y6/1灰 外面：7.5Y6/1灰	ロクロ／横ナデ 高台貼り付け
18	12-8	19	Ⅲ層 TR3	碗	須恵器	1		4.2		石英、砂		内面：5Y7/1灰白 外面：7.5Y5/1灰	内外面ロクロ回転ナデ 高台貼り付け
19	10-9	17	Ⅱ層 TR2	杯	須恵器	2	13.4	3.7	7.0			内面：2.5Y7/2灰黄 外面：5Y7/2灰白	外面回転ロクロ横ナデ 内面ナデ／ベタ底
20	10-10	18	Ⅱ層 TR2	杯	須恵器	2	13.6	3.5	9.4			内面：2.5Y8/2灰白 外面：2.5Y8/2灰白	回転横ナデ／内定面ナデ 回転ナデ／ベタ底
21	10-11 5-2	16	不明	杯	須恵器 香長小学校	2	13.2	3.4	8.8			内面：2.5Y5/3黄褐 外面：2.5Y5/2灰白	内外回転横ナデ 回転ナデ／ベタ底
23	11-3	59	Ⅱ層 TR4	杯	須恵器	2	12.6（推定）					内面：2.5Y7/2灰黄 外面：2.5Y7/3浅黄	内外ロクロ横ナデ 回転ナデ／ベタ底
24	11-4	15	Ⅱ層 TR4	杯	須恵器	2	13.2	3.3	8.6			内面：7.5Y6/1灰 外面：10Y6/1灰	内外ロクロ横ナデ調整 回転ナデ／ベタ底
25	12-9	14	Ⅱ層 TR3	杯	須恵器	2	14.8（推定）	3.0	9.6			内面：10YR7/4にぶい黄橙 外面：10YR6/4にぶい黄橙	内外ロクロ横ナデ調整 回転ナデ／ベタ底
26	10-12	20	Ⅱ層 TR2	Ⅲ	須恵器	3	13.4	2.7	8.6			内面：2.5Y6/1黄灰 外面：2.5Y6/2灰白	内外面ロクロ横ナデ 回転ナデ／ベタ底
27	10-13	21	Ⅱ層 TR2	Ⅲ	須恵器	3	15.6	2.8	12.4			内面：5Y6/1灰 外面：5Y7/1灰白	内外面ロクロ横ナデ 回転ナデ／ベタ底

表3　遺物観察表2

実測No.	図No.	写真No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	分類	法量（cm）			胎土	焼成	色　調	特　徴 成形／調整／その他
							口径	器高	底径				
28	10-14	50	Ⅱ層 TR2	盤	須恵器	4			10.9			内面：2.5Y6/3にぶい黄 外面：2.5Y6/3にぶい黄	外内面ナデ仕上げ
29	11-5	5	Ⅱ層 TR4	盤（碗？）	須恵器	4			10.2			内面：5Y5/1灰 外面：2.5Y5/1黄灰	外内面回転ロクロナデ仕上げ 焼成によるゆがみ有り
30	10-15	25	Ⅱ層 TR2	蓋	須恵器	5	15.4	2.4				内面：10YR8/3浅黄橙 外面：10YR8/3浅黄橙	外内面ナデ仕上げ ボタン状つまみ
31	10-16 5-3	23	不明	蓋	須恵器 香長小学校	5	13.6	2.4				内面：7.5Y5/1灰 外面：5Y4/1灰	外内面ナデ仕上げ ボタン状つまみ
32	10-17	24	Ⅱ層 TR2	蓋	須恵器	5	15.2	1.9				内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y6/3にぶい黄	内外面ナデ仕上げ ボタン状つまみ
33	10-18	41	Ⅱ層 TR2	蓋	須恵器	5						内面：5Y4/1灰 外面：5Y4/1灰	内外面ナデ仕上げ 宝珠つまみ
34	10-19	22	Ⅱ層 TR2	蓋	須恵器	5	14.2	2.4				内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y6/3にぶい黄	天井部外面回転横ナデ 天井部内面中央ナデ ボタン状つまみ
35	5-5	38	不明	蓋	須恵器 香長小学校	5	12.8	3.5				内面：2.5Y6/2灰黄 外面：7.5Y6/1灰	外面ナデ、回転横ナデ 内面横ナデ／ボタン状つまみ
36	5-4	39	不明	蓋	須恵器 香長小学校	5	14.0					内面：N5/0灰 外面：7.5Y4/1灰	内外面ロクロ回転横ナデ
37	10-25	40	表面採集	蓋	須恵器	5	10.1					内面：2.5Y7/3浅黄 外面：2.5Y6/2灰黄	内外面ロクロ回転横ナデ仕上げ
38	11-7	45	Ⅱ層 TR4	蓋	須恵器	5						内面：2.5Y7/1灰白 外面：5Y6/1灰	外面ヘラ、回転横ナデ ボタン状つまみ／内面回転横ナデ
39	11-8	44	Ⅱ層 TR4	蓋	須恵器	5						内面：5Y8/1灰白 外面：5Y7/2灰白	内外面横ナデ／外面ヘラ ボタン状つまみ
40	11-9	42	Ⅱ層 TR4	蓋	須恵器	5						内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y7/4浅黄 断面：2.5Y6/2灰黄	内外面横ナデ／外面ヘラ ボタン状つまみ
41	11-10	43	Ⅱ層 TR4	蓋	須恵器	5						内面：2.5Y7/2灰黄 外面：2.5Y5/1黄灰	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ／天井部に小穴あり
42	12-10		Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	14.4	2.0				内面：2.5Y6/1黄灰 外面：N5/0白	外面ヘラ、横ナデ／ボタン状つまみ 内面回転横ナデ
43	12-11	35	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	14.2	3.2				内面：2.5Y6/2灰黄 外面：2.5Y6/1黄灰	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ／ボタン状つまみ
44	12-12	34	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5						内面：2.5Y5/1黄白 外面：2.5Y6/2灰黄	外面ヘラ、横ナデ 回転ナデボタン状つまみ 内面回転横ナデ／焼成ゆがみ
45	12-13	33	Ⅱ層 TR4	蓋	須恵器	5	14.1	2.4				内面：2.5Y7/2 灰黄 外面：2.5Y6/1 黄灰	外面ヘラ、回転横ナデ ボタン状つまみ／内面横ナデ
46	12-14	32	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	14.2	2.3				内面：2.5Y7/2 灰黄 外面：2.5Y7/2 灰黄	外面ヘラ、回転横ナデ ボタン状つまみ 内面回転横ナデ
47	12-15	31	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	15.0	2.2				内面：10Y7/4 にぶい黄橙 外面：2.5Y7/3 浅黄 断面：10YR7/4 にぶい黄橙	外面ヘラ、回転横ナデ 内面回転横ナデ／ボタン状つまみ
48	12-16	30	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	11.8	1.9				内面：7.5Y6/1 灰 外面：5Y5/1 灰 断面：5Y6/1 灰	外面ヘラ、回転横ナデ ボタン状つまみ／内面回転横ナデ
49	12-17	29	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	15.6	2.3				内面：7.5Y6/1 灰 外面：2.5Y7/2 灰黄	外面ヘラ、回転横ナデ ボタン状つまみ／内面回転横ナデ
50	12-18	28	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	14.0	2.7				内面：2.5Y7/1 白黄 外面：2.5Y7/2 灰黄 断面：2.5Y7/2 灰黄	外面ヘラ、回転横ナデ ボタン状つまみ／内面回転横ナデ
51	12-19	27	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	15.7	3.2				内面：2.5Y7/2 灰黄 外面：2.5Y6/2 灰黄 断面：2.5Y7/2 灰黄	外面ヘラ、回転横ナデ ボタン状つまみ／内面回転横ナデ
52	12-20	26	Ⅱ層 TR3	蓋	須恵器	5	16.3	1.9				内面：2.5Y7/3 浅黄 外面：2.5Y7/2 灰黄 断面：2.5Y7/2 灰黄	外面ヘラ、回転横ナデ 内面横ナデ 扁平なボタン状つまみ
54	10-20	60	Ⅱ層 TR2	壺（長頸壺）	須恵器	6						内面：N7/0 灰白 外面：5Y7/1 灰白	内外面ナデ仕上げ

表4　遺物観察表3

実測No.	図No.	写真No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	分類	法量（cm）			胎土	焼成	色　調	特　徴 成形／調整／その他
							口径	器高	底径				
55	12-7	49	Ⅱ層 TR3	壺（底部）	須恵器	6			12.3			内面：2.5Y7/2 灰黄 外面：N5/0 灰	内外面ロクロ横ナデ 焼成ゆがみ／高台貼り付け
56	12-22	56	Ⅱ層 TR3	壺（短口壺）	須恵器	6						内面：2.5Y6/3 にぶい黄 外面：2.5Y6/1 黄灰	内外面ロクロ横ナデ
57	12-21	51	Ⅱ層 TR3	壺（底部）	須恵器	6			12.3			内面：2.5Y7/2 灰黄 外面：N5/0 灰	底部内外ロクロ横ナデ
59	10-21	54	Ⅱ層 TR2	甕（口縁部）	須恵器	7						内面：2.5Y2/4 浅黄 外面：2.5Y6/2 灰黄	内外面ロクロ回転横ナデ
60	10-22	36	Ⅱ層 TR2	甕（口縁部）	須恵器	7	24.0（推定）					内面：2.5Y3/1 黒褐 外面：2.5Y5/2 暗灰黄 断面：2.5Y5/2 暗灰黄	内外面ロクロ横ナデヘラ
61	11-11	57	Ⅱ層 TR4	甕（口縁部）	須恵器	7	31.2（推定）					内面：2.5Y6/2 灰黄 外面：2.5Y6/2 灰黄 断面：2.5Y6/2 灰黄	内面横ナデ／外面口縁部横ナデ 口縁部下ハケによるタテナデ
62	11-12	58	Ⅱ層 TR4	甕（口縁部）	須恵器	7	18.0					内面：N4/0 灰 外面：N4/0 灰	内外面ヘラ、回転横ナデ
63	11-13	55	Ⅱ層 TR4	甕（口縁部）	須恵器	7						内面：5Y6/2 灰オリーブ 外面：5Y6/1 灰 断面：2.5Y7/2 灰黄	横ナデ 内外面横ナデ
64	11-6	46	Ⅱ層 TR4	高杯	須恵器	8			3.9			内面：5Y7/1 灰白 外面：2.5Y7/2 灰黄	外面ヘラ、横ナデ 内面回転横ナデ
65	11-14	61	Ⅱ層 TR4	平瓦	布目瓦	9						内面：N5/0 灰 外面：N4/0 灰 断面：N5/0 灰	焼成によるゆがみ
66	10-23	63	Ⅱ層 TR2	土錘		10	全長 4.7					外面：2.5Y7/2 灰黄	
67	10-24	62	Ⅱ層 TR2	土錘		10	全長4.7					外面：N6/0 灰	
68	10-25	64	Ⅱ層 TR2	土錘		10	全長4.7	1.5	-			外面：5Y6/1 灰	
69	5-1	26	不明	杯	須恵器 香長小学校	11	4.0	3.4				内面：10Y6/1 灰 外面：10Y6/1 灰	内外面回転ロクロ横ナデ調整

第Ⅳ章　総　　括

林ノ谷窯跡群について

１号窯跡は全長約８ｍ、断面では最大で約２ｍ、焚き口は最大約2.3ｍを測る。天井部分、煙出し部分は破壊されており不明である。窯跡の全体形状は舟底状を呈し、半地下式登窯である。窯壁はワラを混ぜて手で撫ぜて形成された後、焼成により構築されている。

窯跡部より実測できる遺物は出土していないが焚口南側下段の灰捨場より多量の炭、須恵器が出土していた。

２号窯跡は全長約９ｍ、断面の最大は約２ｍ、焚口は最大2.2ｍである。天井部、煙出し部分は破壊され現存しない。窯跡の全体形状は舟底状で窯の構造は半地下式登窯である。窯壁はワラと粘土を混ぜて形成し、焼成により構築されている。灰捨場は焚口南側の下段に所在し大量の炭、須恵器片が出土した。窯の底部から２から３回程度の修復がみられる。

３号窯跡は全長約９ｍ、断面の最大は約1.9ｍ、焚口は最大約２ｍである。天井部、煙出し部分はすべて破壊されている。窯の構造は半地下式登窯で窯壁はワラと粘土を混ぜて構築、焼成されている。窯跡からの出土遺物は無く焚口南側に広がる灰捨場から炭、須恵器が出土している。窯は２回ないし３回の修復がなされている。

本調査により３基より成る林谷窯跡群はその出土遺物から従来推定されていた年代である７世紀後半と８世紀末の２時期にではなく窯業としての操業は８世紀後半の時期であり、その操業期間も短期間の窯業生産操業であったと推定される。

須江古窯跡群について

現在までに須江、新改、植、入野、大法寺地区に分布する須江窯跡群については発掘調査により調査された窯跡は西谷１号・２号窯跡、東谷１号・２号・３号窯跡（松本窯跡）、小山田窯跡群の灰捨場（二次堆積）であり今回の林谷窯跡の３基を含めてもごく僅かである。須江古窯跡群の現在確認されている遺物からは７世紀末（小山田窯跡灰捨場・植タンガン窯跡）を上限として下限は11世紀頃（大谷窯跡）までの遺物が発見されている。現在までに窯跡群の窯の構造及び主流生産は須恵器が専用であり、瓦窯専用の窯跡は確認されていない。高知県内の古墳から出土する副葬品のうち、須恵器を見る限り高知県内において６世紀初めの窯跡が存在するはずであるが現在のところ発見されていない。土佐山田町に所在する古墳から伏原大塚古墳（方墳）周濠より出土した須恵質の円筒埴輪の出土例から本古墳近辺には６世紀代の窯跡の存在が予想される。

高知県内最大の窯跡群である須江古窯跡群の全体像は不明であるが土佐における律令制の成立と土佐国内での古代寺院の建立と古代豪族の様相など窯業生産から少なからずも土佐の古代史の研究上欠かすことの出来ない遺跡であり今後の調査活用が期待される。

図 13　土佐山田町古代窯跡分布図 1

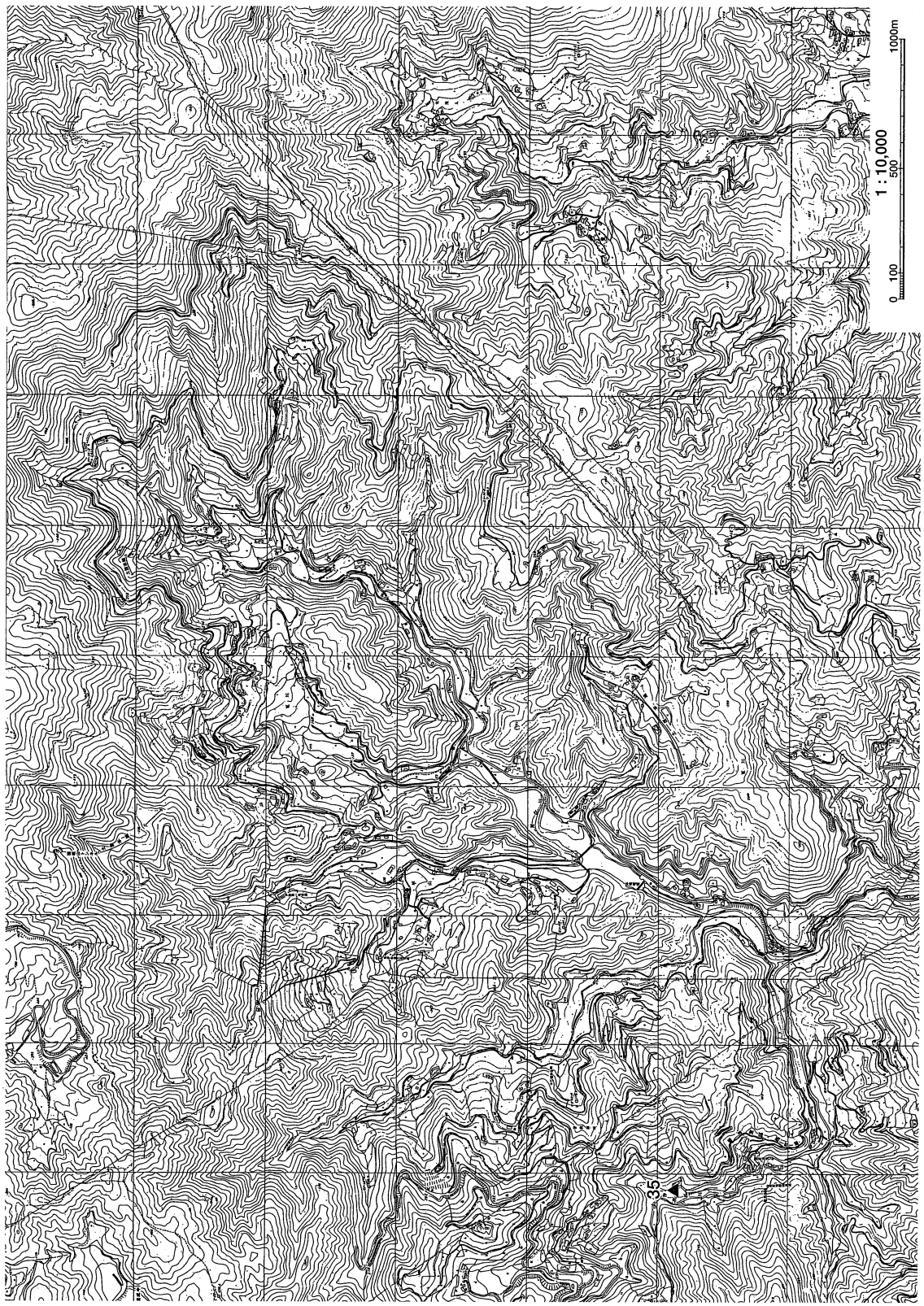
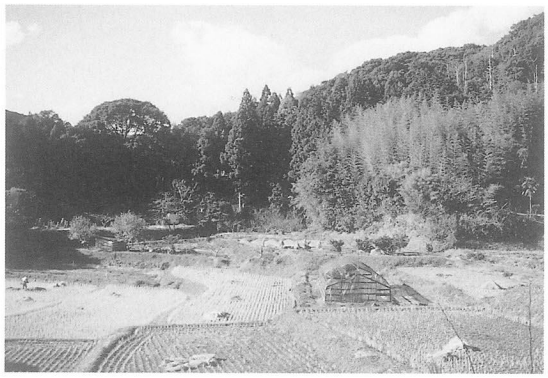


図 14　土佐山田町古代窯跡分布図 2

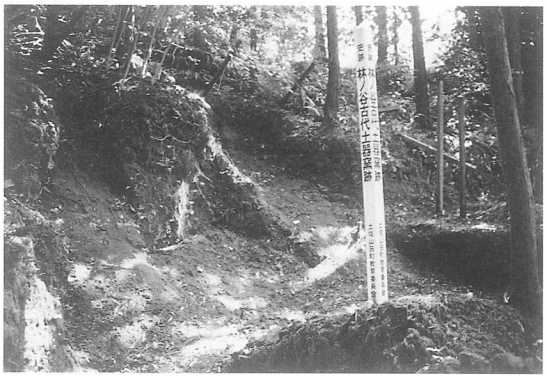
表５　土佐山田町の古窯跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	立地	構造	出土品	文献
1	須江窯跡	土佐山田町須江米ケ内	標高30m程度の水田立地	不明	不明	『土佐山田町史』考古編P130
2	林谷窯跡群（林谷１号窯跡）	土佐山田町新改字林ノ谷338	標高70m程度の水田立地	半地下式登窯	須恵器	岡本健児『高知県史考古編』1968、廣田典夫『土佐山田町史』考古編Ｐ130、廣田典夫『土佐の須恵器』
3	林谷窯跡群（林谷２号窯跡）	土佐山田町新改字林ノ谷338		半地下式登窯	須恵器	岡本健児『高知県史考古編』1968、廣田典夫『土佐山田町史』考古編Ｐ130、廣田典夫『土佐の須恵器』
4	林谷窯跡群（林谷３号窯跡）	土佐山田町新改字林ノ谷338		半地下式登窯	須恵器、布目瓦、土錘	岡本健児『高知県史考古編』1968、廣田典夫『土佐山田町史』考古編Ｐ130、廣田典夫『土佐の須恵器』
5	東谷窯跡群（東谷１号窯跡）	土佐山田町新改字東谷943	山の中腹に立地	半地下式登窯	須恵器（杯・甕・鉢）	廣田典夫『高知県新改東谷古窯跡群の発掘』1978、廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979
6	東谷窯跡群（東谷２号窯跡）	土佐山田町新改字東谷943	山の中腹に立地	半地下式有牀登窯	瓦軒丸瓦＜単弁蓮華文鐙瓦＞・平瓦(格子目文･縄目文)･丸瓦(玉縁瓦)	廣田典夫『高知県新改東谷古窯跡群の発掘』1978、廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979
7	東谷窯跡群（東谷３号窯跡）	土佐山田町新改字東谷943	山の中腹に立地	半地下式有階有段登窯	須恵器（蓋・杯・椀・皿・瓶・壺・甕）	廣田典夫『高知県新改東谷古窯跡群の発掘』1978、廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979
8	西谷窯跡群（西谷１号窯跡）	土佐山田町新改字西谷	山麓	半地下式登窯	須恵器（杯・蓋杯・平瓶・甕）	堀内和郎「土佐における原史時代の陶工･瓦工址の発見」『土佐史談58号』1937、廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979
9	西谷窯跡群（西谷１号窯跡）	土佐山田町新改字西谷	山麓			
10	西内窯跡	土佐山田町新改字西ノ内	山麓	不明	須恵器（皿・甕）	
11	三反山田窯跡	土佐山田町新改字三反山田	山麓	登窯（2基）	不明	堀内和郎「土佐における原史時代の陶工・瓦工址の発見」『土佐史談56号』、廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979
12	入野岡ノ丸窯跡	土佐山田町入野字岡ノ丸	山の中腹に立地	不明	須恵器（皿・甕・椀・双耳瓶）	廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979
13	大法寺１号窯跡（大法寺西 窯跡）	土佐山田町大法寺字後口山	山麓		須恵器（蓋・杯・盤・高杯・瓶・壺・甕）「上」「禾」「力」の刻書土器	廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979 廣田典夫『土佐の須恵器』四国考古学叢書２　1991
14	大法寺２号窯跡	土佐山田町大法寺字西ノ谷			須恵器（杯・皿・甕）	
15	大法寺３号窯跡	土佐山田町大法寺字ヤヂ			須恵器（甕）	
16	大法寺ヤシキダ１号窯跡	土佐山田町大法寺字ヤシキダ			須恵器（甕・皿・蓋）窯壁片	
17	大法寺ヤシキダ２号窯跡	土佐山田町大法寺字ヤシキダ			須恵器（甕・皿・蓋）	
18	大法寺下モホソダ窯跡	土佐山田町大法寺字下モホソダ			須恵器（甕）	
19	大法寺二反田窯跡（大法寺東窯跡）	土佐山田町大法寺字二反田			須恵器（甕・蓋・盤・椀・壺・瓶）	廣田典夫『土佐の須恵器』四国考古学叢書2　1991
20	大法寺ヘエスヤジ１号窯跡	土佐山田町大法寺字ヘエスヤジ				
21	大法寺ヘエスヤジ２号窯跡	土佐山田町大法寺字コダニ			須恵器（杯・蓋・皿・甕）	
22	入野城ノ谷１号窯跡	土佐山田町入野字大釜1032-リ他			須恵器	
23	入野城ノ谷２号窯跡（入野窯跡）	土佐山田町入野字大釜1025-8			須恵器（蓋・杯・椀・双耳瓶）	廣田典夫『土佐山田町史』考古編1979 廣田典夫『土佐の須恵器』四国考古学叢書2　1991
24	植セガイ窯跡	土佐山田町植字セガイ506-1他			須恵器（甕）	
25	植タンガン１号窯跡	土佐山田町植字タンガン1119-2他				
26	植タンガン２号窯跡	土佐山田町植字タンガン1119-2他				
27	新改大谷１号窯跡	土佐山田町新改字大谷993				
28	新改大谷２号窯跡	土佐山田町新改字大谷993				
29	新改大谷３号窯跡	土佐山田町新改字大谷993				
30	新改小山田１号窯跡	土佐山田町新改字小山田484				
31	新改小山田２号窯跡	土佐山田町新改字小山田484			須恵器（甕・杯・蓋）	
32	新改小山田３号窯跡	土佐山田町新改字小山田484			須恵器（甕・杯・蓋）	
33	新改八ノ谷窯跡	土佐山田町新改字八ノ谷1065-イ他				
34	入野下ヲモダ窯跡	土佐山田町入野字ヲモダ706			須恵器	『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財分布調査報告書』高知県文化財調査報告書第21集1977
35	平山カタナギリ窯跡	土佐山田町曽我部川字カタナギリ			須恵器	『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財分布調査報告書』高知県文化財調査報告書第21集1977
36	予岳窯跡	土佐山田町予岳字				
37	長谷山１号窯跡	土佐山田町予岳字長谷山3589	山麓		須恵器	
38	長谷山２号窯跡	土佐山田町予岳字長谷山3589	山麓	登窯（消滅）	布目瓦（平瓦・丸瓦）	
39	山本前田窯跡	土佐山田町加茂字山本前田468			布目瓦（平瓦・丸瓦、鐙瓦）	『加茂ハイタノクボ遺跡』土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第28集、2000

写 真 図 版



遺跡遠景



右より２・３号窯跡

１号窯跡

２号窯跡

３号窯跡

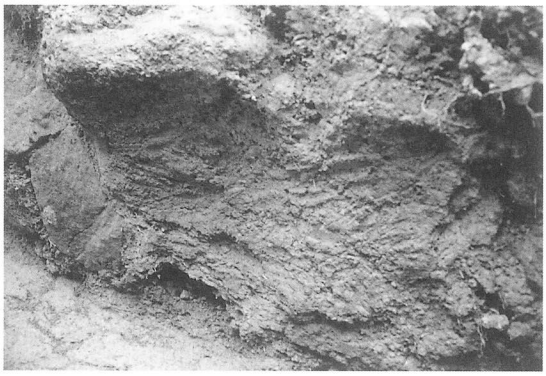
１号窯跡完掘状況

１号窯跡完掘状況

１号窯跡煙出し部分

遺構 2

1 号窯跡煙出し部分

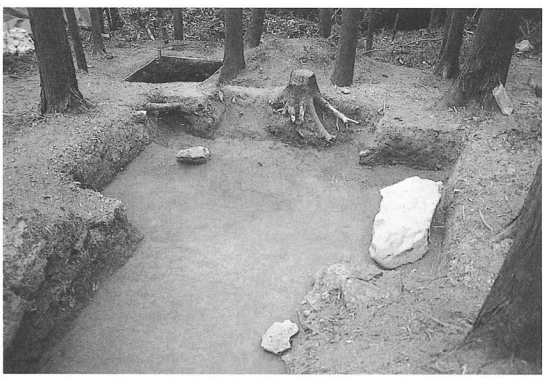


1 号窯跡側壁部分

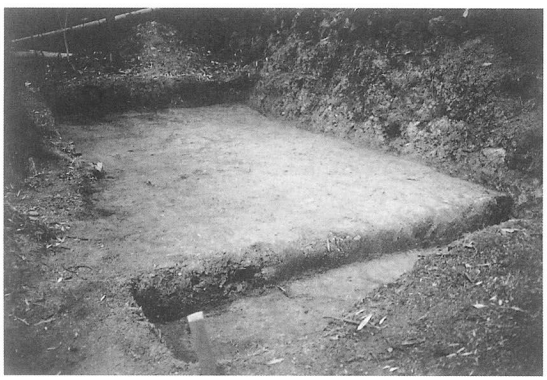
1 号窯跡側壁部分

1 号窯跡側壁部分

1 号窯跡焚口部分



1 号窯跡焚口と TR-2



TR-1

TR-2

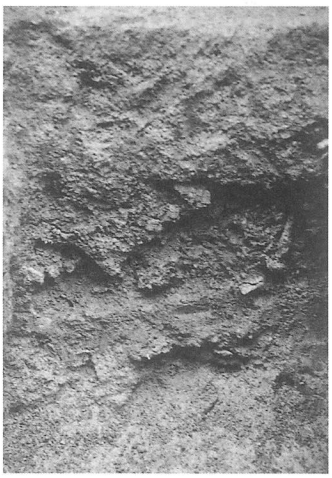
3 号窯跡完掘状況

3 号窯跡完掘状況

3 号窯跡底部トレンチ

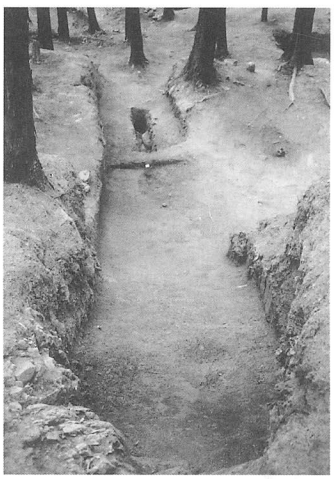
3 号窯跡煙出し部分

3 号窯跡側壁部分



3 号窯跡底部トレンチ

2 号窯跡完掘状況



2 号窯跡完掘状況

2 号窯跡煙出し部分

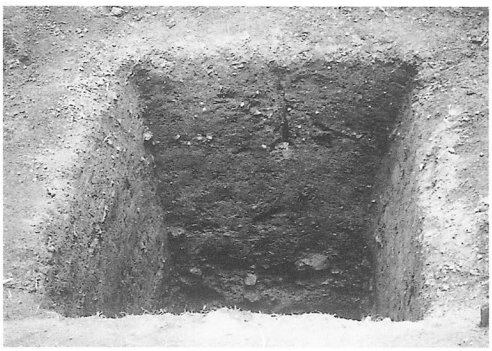
2 号窯跡底部トレンチ

遺構 4

灰捨場

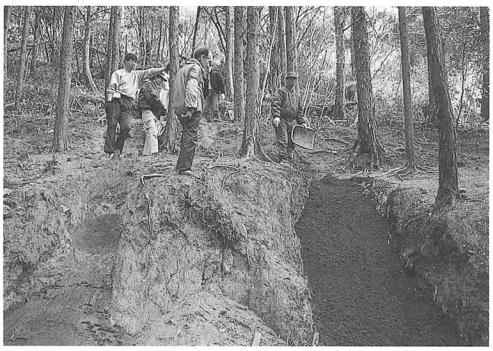
右 TR-3　左 TR-4

TR-4 セクション



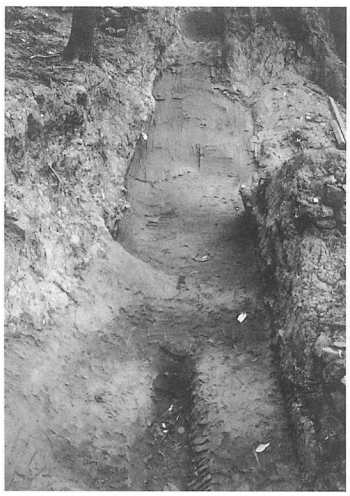
TR-3 セクション

TR-4 セクション

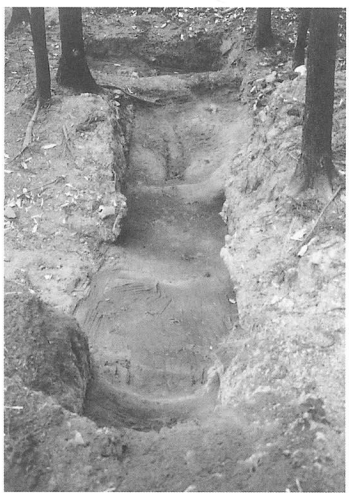


窯跡埋戻し作業

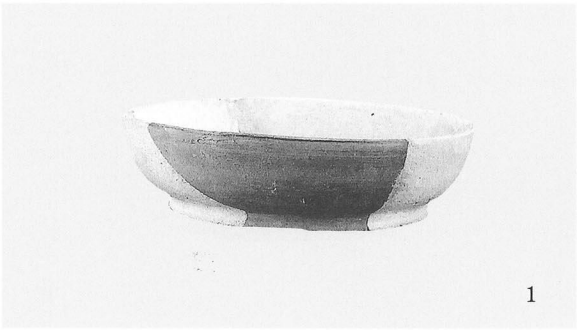
1 号窯跡埋戻し

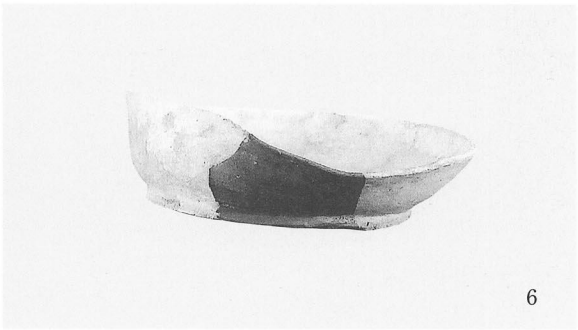


2 号窯跡埋戻し

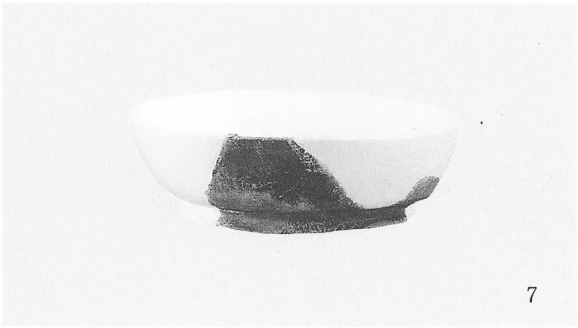


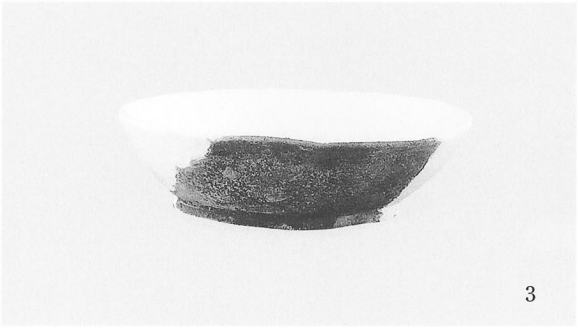
3 号窯跡埋戻し

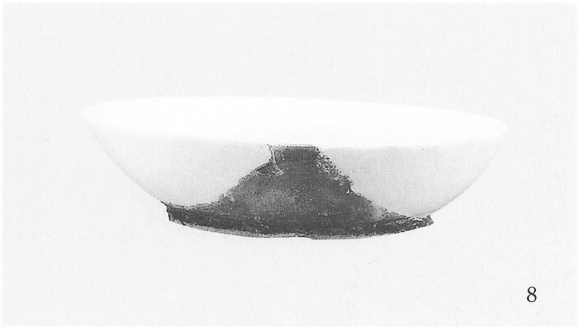

1

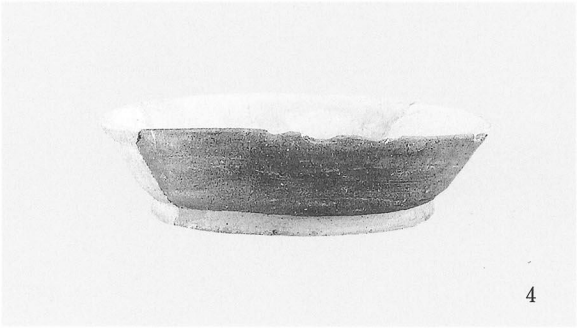

6

2

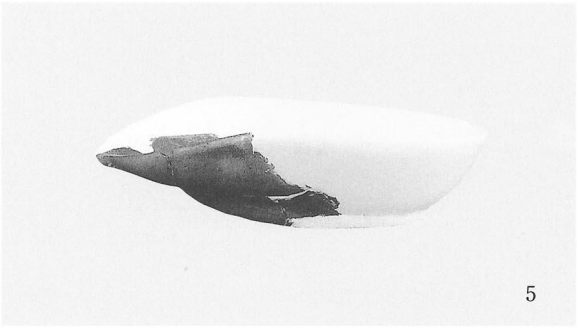

7

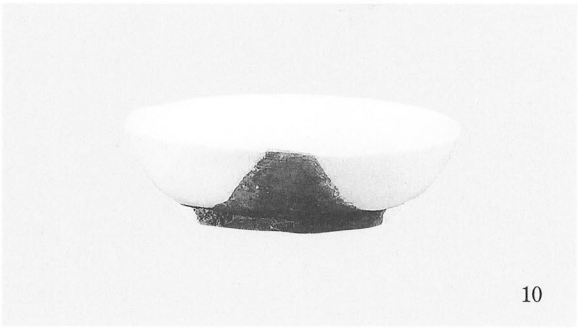

3


8


4

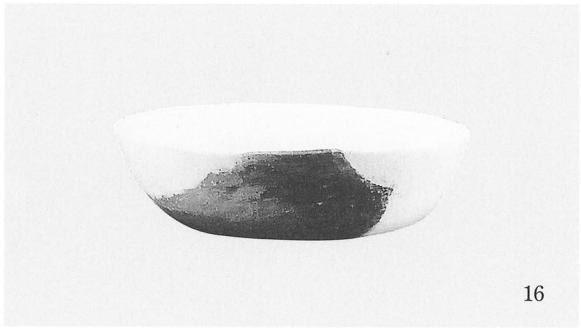
9

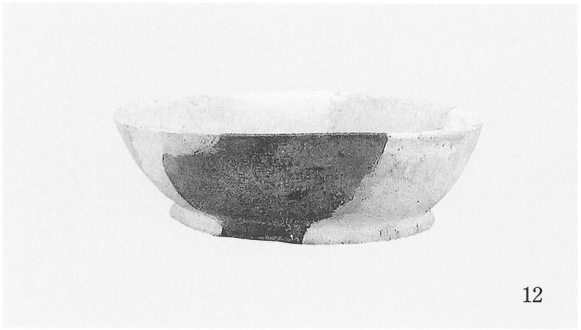

5

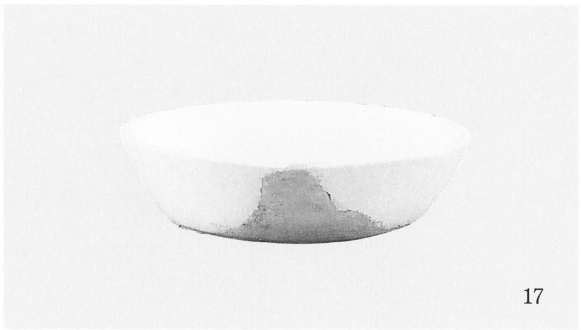

10

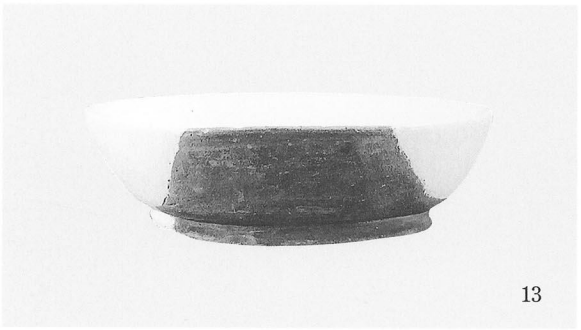
遺物２

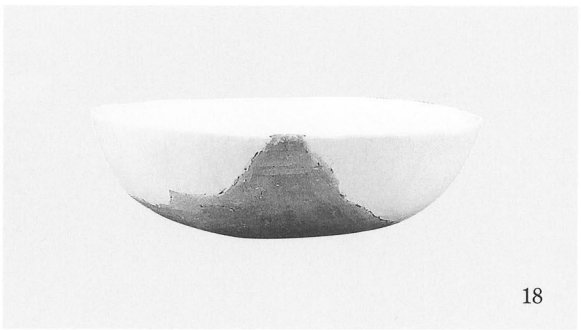
11


16

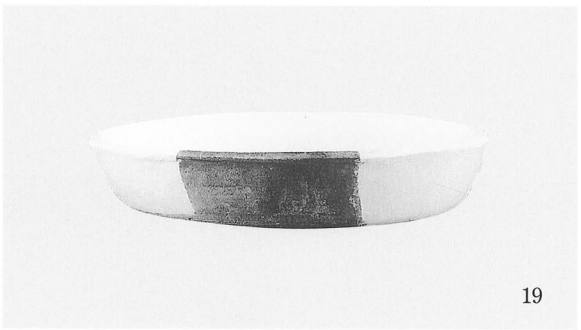

12

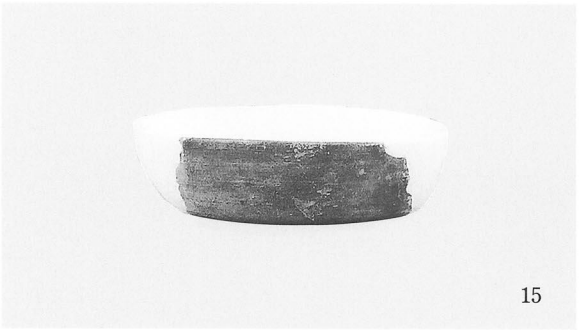

17


13

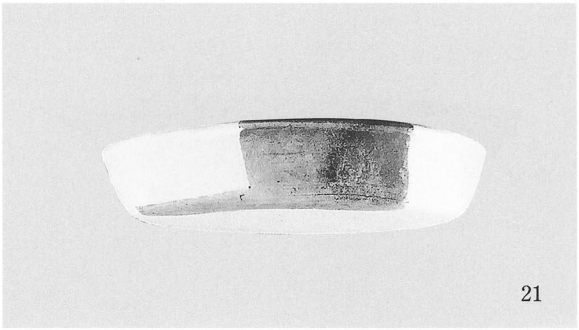

18

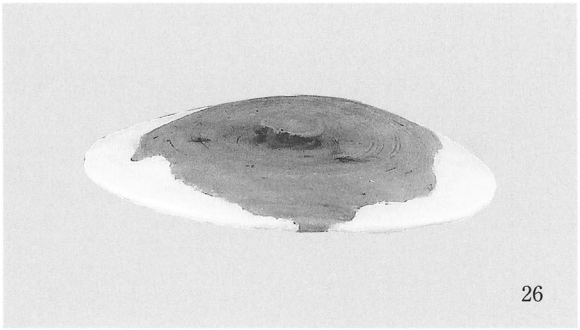
14

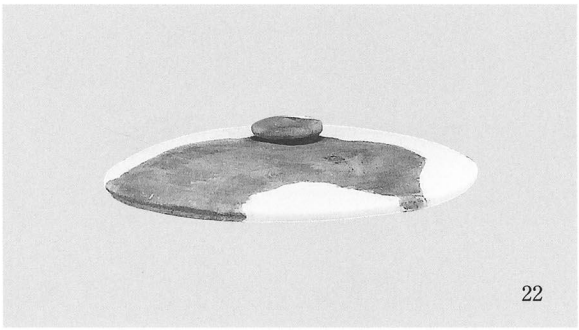

19

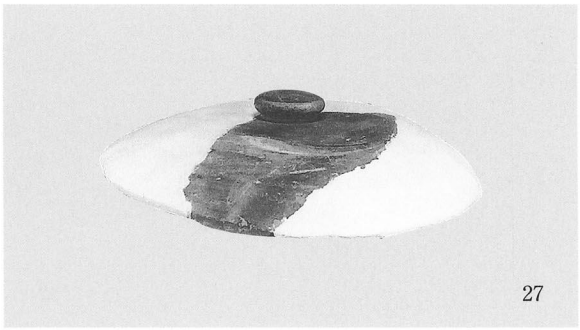

15

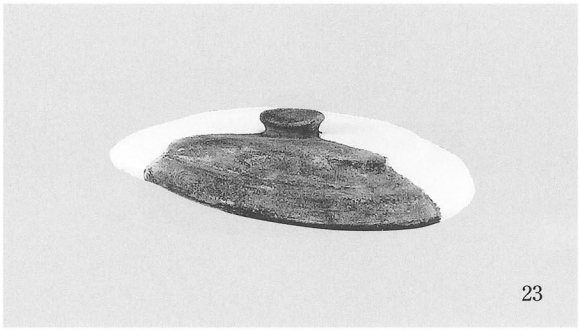
20

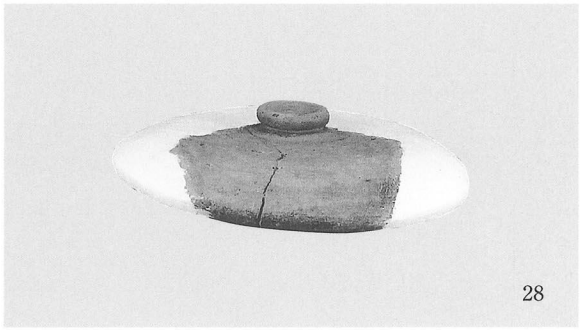

21

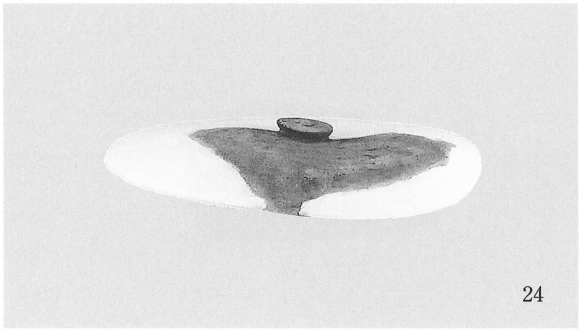

26

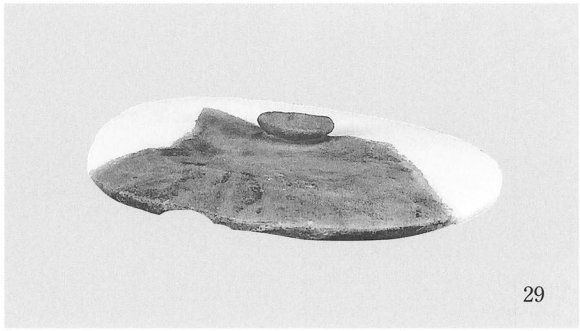

22

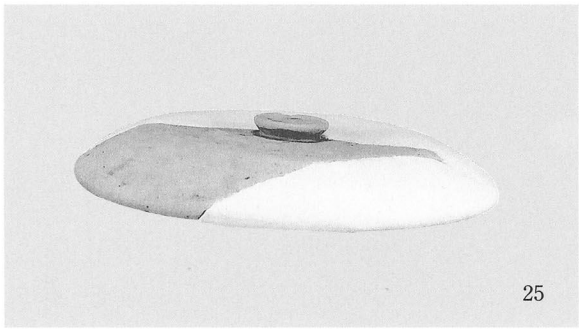

27

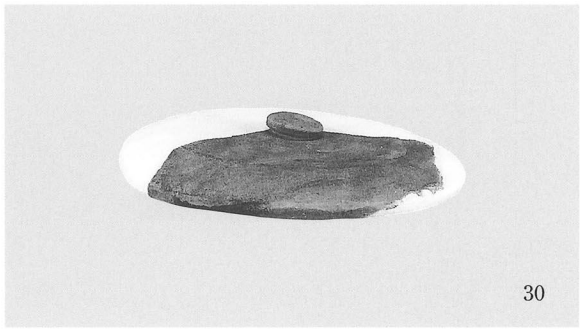

23


28

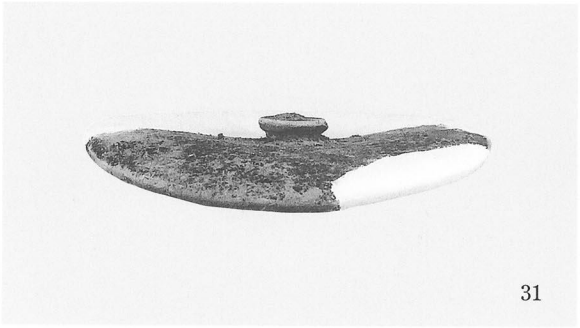

24


29

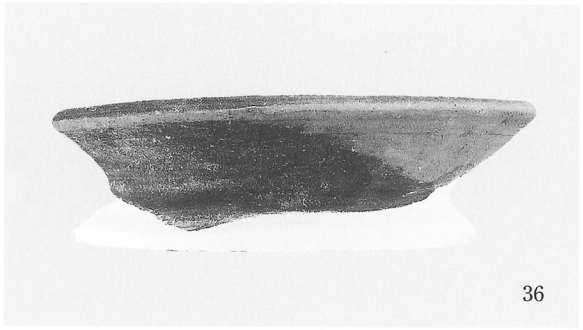

25


30

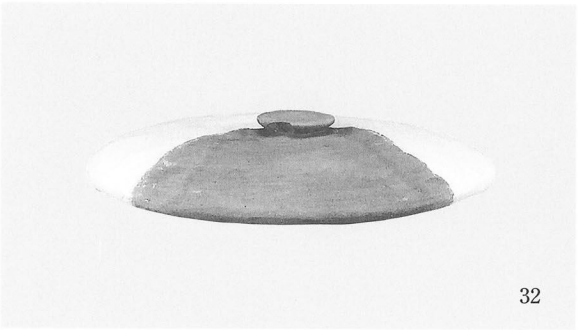
遺物 4



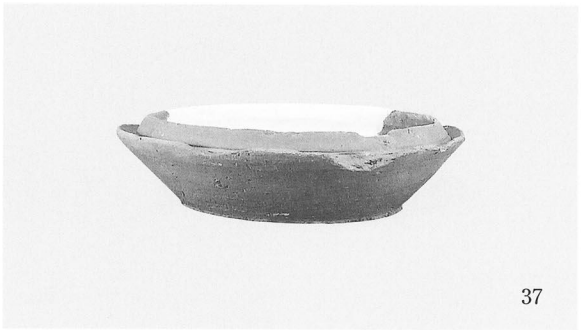
31



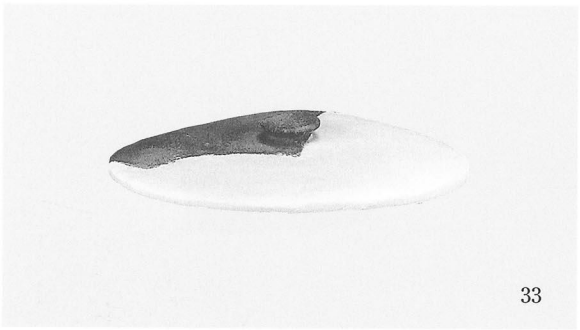
36



32

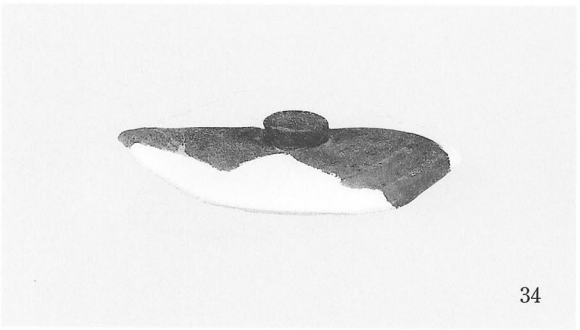


37

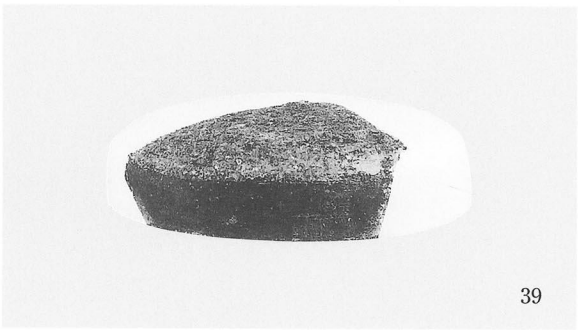


33

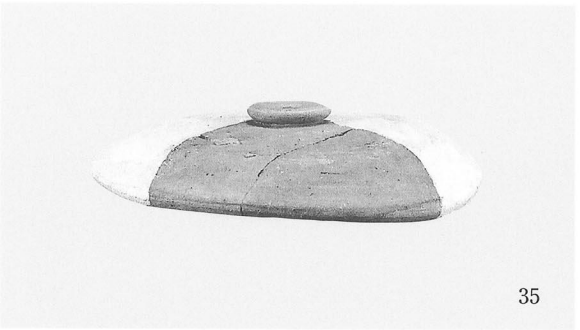
38



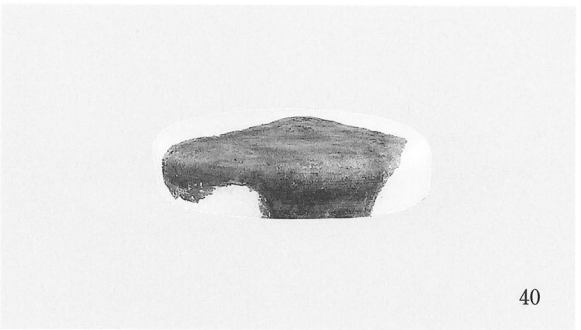
34



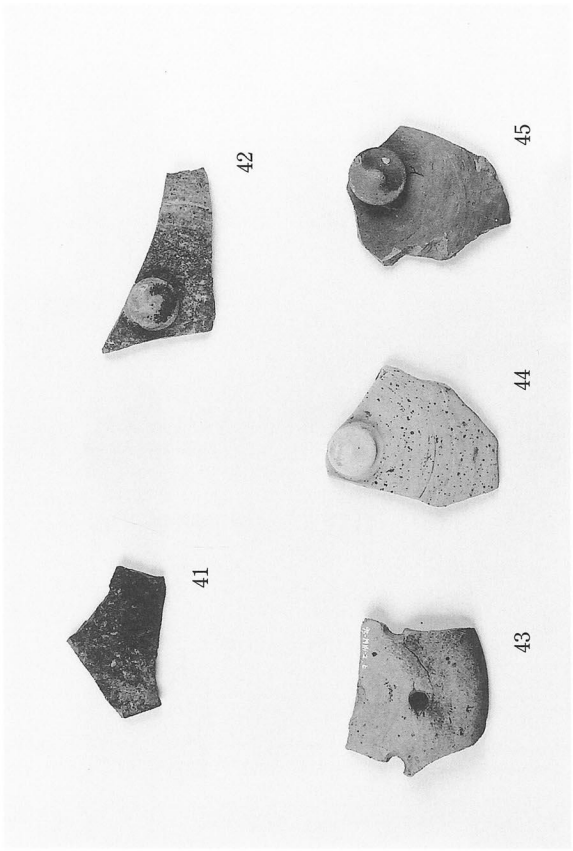
39

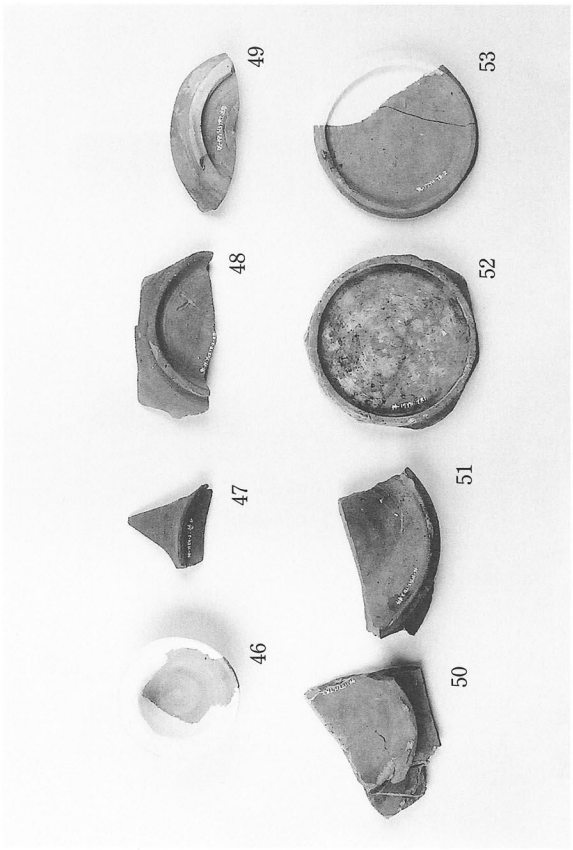


35

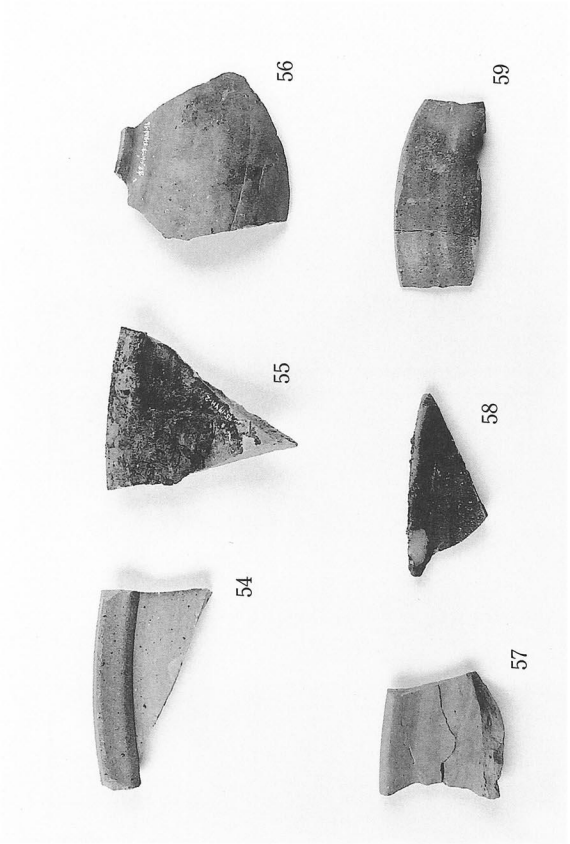


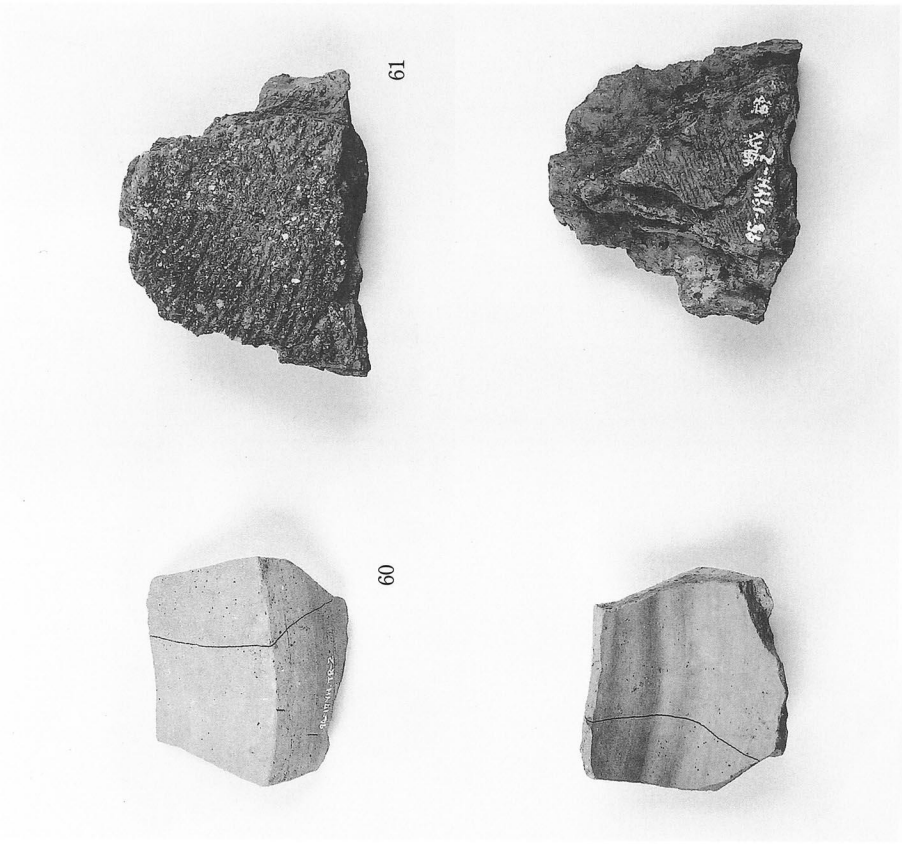
40


41
42
43
44
45


46
47
48
49
50
51
52
53

遺物 6





報告書抄録

ふりがな	はやし　の　たに　こ　よう　あと
書名	林　ノ　谷　古　窯　跡
副書名	自然崩壊に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第２１集
編著者名	中山泰弘
編集機関	土佐山田町教育委員会
所在地	〒782－0017　高知県香美郡土佐山田町岩積365－1
発行年月日	西暦2003年６月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
林ノ谷 古窯跡	高知県香美郡 土佐山田町 新改 字林ノ谷338	393231	190051 190052 190053	33° 37′ 48″	133° 40′ 90″	１号窯跡： 平成６年 ７月14日 ～９月16日 第３号窯跡： 平成７年 ７月14日 ～９月13日 第３号窯跡： 平成８年 ７月29日～ ８月27日	165m²	学術調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
林ノ谷古窯跡 （林ノ谷１号窯跡 林ノ谷２号窯跡 林ノ谷３号窯跡）	窯跡	古代	半地下式登窯	須恵器	

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第21集

林ノ谷古窯跡

２００３.６

発　行　土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積３６５－１

ＴＥＬ　０８８７－５３－３１１１(代)

印　刷　西村謄写堂